

東大阪・八尾・大東周辺地域の医療機関情報誌

こ近所ドクター BOOK

地元ドクターの素顔や人柄に接近!

2026 保存版

Take Free

ご自由にお取り下さい



- 地域医療のかたち
- HELLO ご近所ドクター
- ワタシのかかりつけ医
- 専門医療にせまる

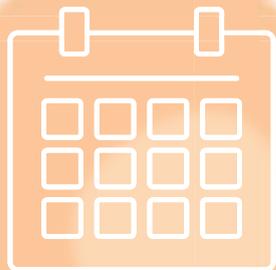
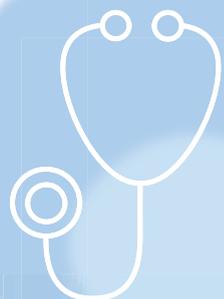
特別寄稿

市長からのメッセージ

「地域医療のこれからについて」



この街で見つけよう!
安心・頼れるかかりつけ医





Higashiosaka City.

東大阪市

東大阪市長
野田 義和

Higashiosaka City.

地域医療体制の構築に向けて

現在、本市は約47万7千人の市民が暮らす中核市ではありますが、将来的には少子高齢化の影響などによる大幅な人口減少とともに、2040年頃まで高齢者人口の増加が続くと推計されています。高齢化が進むと、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯、医療を必要とされる高齢者の増加が予想されます。そのような中、多くの人が可能な限り最期まで自宅での生活の継続を希望しています。しかし、年齢が進むにつれ身体機能の低下や新たな病気の発症、認知症等、それを困難にする要因が増えてきます。そのため、さらなる地域医療体制の整備や医療・介護の充実を図っていく必要があります。

第8次大阪府医療計画に基づき、在宅医療の圏域を二次医療圏単位として整備し、「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を中心に在宅医療の体制構築にかかる取組みを推進しています。「在宅医療において積極的役割を担う医療機関」を設定し、在宅医療を提供するとともに、他の医療機関の支援も行いながら、医療や介護、障がい福祉の現場での多職種間連携の支援を行っています。

地域医療連携とは、地域内の医療機関がそれぞれの機能や役割を分担し、患者が適切な医療サービスを受けられるようにするための仕組みです。高度な医療設備や専門性を有する病院、かかりつけ医などが役割分担し、相互に連携することで、患者は急性期の治療から回復期を経て、退院後のかかりつけ医による診療や在宅療養が継続できます。円滑に切れ目のない医療を提供することで、住み慣れた地域での生活を選択することが可能になります。

今後も市民の皆様が安心して暮らせるまちをめざして、地域医療体制の整備や医療・介護の連携の推進を図ってまいります。皆様の一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大阪東地域

地域医療のこれからについて

市長からのメッセージ

現在の医療現場が抱える問題、それに立ち向かう行政のあり方や、今後の対策、取り組みについて三人の市長にうかがいました。



Daito City.

大東市

大東市長
逢坂 伸子

Daito City.

誰もが安心して暮らせる 医療体制の実現について

現在、医療現場は少子高齢化の進行や医療従事者の不足、そして医療費の増大といった課題を抱えています。大東市においても、高齢化が進み医療の必要性が高まる一方で、地域によっては医療資源に限りがあり、市民が将来にわたり安心して医療を受けられる体制を維持していくことが課題となっています。こうした状況の中、市は、市民に最も身近な基礎自治体として、地域医療を支える重要な役割を担っています。

大東市では、地域の医療ニーズを的確に把握し、医療機関や大阪府、関係団体と連携しながら、効率的で持続可能な医療提供体制の構築に取り組んでいます。特に地域医療連携の推進は重要です。急性期医療から回復期、在宅医療までを切れ目なくつなぐ体制を整えるため、市が調整役として主体的に関わる必要があります。具体的には、医療機関間の役割分担や情報共有を進めることで、限られた医療資源を有効に活用していきます。

また、医療提供体制の充実に加え、介護予防の推進や各種けんしん受診率の向上にも力を入れています。市民一人ひとりが健康への意識を高め、疾病の早期発見・早期対応につなげることで、医療や介護にかかる負担の軽減を図ります。将来に向けては、ICTの活用や多職種連携を支援し、地域全体で市民の健康を支える仕組みを整えていく必要があると考えています。

大東市は、医療現場や地域住民と連携しながら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる医療体制の実現をめざしていきます。



Yao City.

八尾市

八尾市長
大松 桂右

Yao City.

いきいきと活気にあふれる 「健康都市やお」の実現へ

市民の皆様におかれましては、本市の保健医療行政にご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、昨年度もインフルエンザをはじめとするさまざまな感染症が発生しました。市民のみなさまの健康を守るために、本市といたしましては引き続き感染症の発生動向を注視し市民への適切な情報発信とともに、高度で良質な医療の提供が不可欠であると考えております。

そのような中、市立病院においては、急性期医療を担う地域の中核病院として、診療体制、政策医療の充実に努めつつ、新興感染症への対応についても市内唯一の公立病院としての役割を果たしてまいります。

一方、地域の医療提供体制の維持と充実、依然として重要な課題です。中長기를展望しながら、市民の皆様の医療ニーズに応えるため、医師会、歯科医師会、薬剤師会をはじめ、大阪府等の関係機関との連携を強化することで、地域医療体制のさらなる充実を図るとともに、かかりつけ医等の普及促進に努めてまいります。

本市では、保健所に設置した「健康まちづくり科学センター」を中心として、健康寿命の延伸に向け、健診・医療・介護等のデータ分析から明らかになった健康課題に対し、公民連携等の手法も活用しながら課題解決に取り組んでいます。2025年には大学との共同研究により開発した健康寿命推定アプリ「ウェルやお」を大阪・関西万博で体験展示し、1週間の展示期間中、約4000人という多くの方に健康寿命延伸に向けた生活習慣改善に取り組むきっかけとしていただきました。さらに現在、市のホームページでも、ご覧いただくことが出来、13万人を超える方々が利用され市民一人ひとりの主体的な健康づくりに活用いただいております。

今後とも、関係機関のご協力を得ながら、いきいきと活気にあふれる「健康都市やお」の実現をめざしてまいります。

この本を手にとってくださいました皆さまへ

よく知らない街で迷ってしまって 誰かに道をたずねようと思ったとき
あなたならどんなひとに声をかけますか？
その街のことをよく知っているのは きっとそこに暮らしているひとです。
ばどに届いた
“地元の病院や先生の情報をもっと知りたい”
そんなたくさんの声から
今年も「ご近所ドクターBOOK」が完成しました。
あなたのことをよく知っているのは きっとあなたの近くにいるひとです。
あなたのからだを守ってくれるのは きっとあなたの近くにいるドクターです。

2026 ご近所ドクターBOOK制作委員会

Contents

2

地域医療のこれからについて
市長からのメッセージ

6

地域医療のカタチ

22

Hello ご近所ドクター

30

ワタシのかかりつけ医

38

専門医療にせまる

40

ご近所ドクターガイド

- ・ 東大阪東エリア
- ・ 東大阪西エリア
- ・ 八尾エリア



2026年3月27日発行

編集・発行 / 株式会社関西ばど 東大阪営業部
〒577-0803 東大阪市下小阪2-14-16 天正八戸ノ里ビル3F
TEL 06-6729-8101

取材 / 株式会社スターファクトリー

※本誌に記載している病院は、大阪東エリアの全病院ではありません。

【(株)関西ばどがドクターブック誌面において取得する個人情報の取り扱い】

①(株)関西ばどがドクターブック誌面において個人情報取得する場合、あらかじめその利用目的を自社広告内または取得フォーム内に明記し、その目的の範囲内に限定して利用いたします。②お預かりした個人情報は、ご本人の事前の承諾なく、第三者に提供することはありません。③提供が予定される場合には、あらかじめ、第三者に提供する目的・提供する個人情報の項目・提供の手段又は方法・当該情報の提供を受ける者又は提供を受ける者の組織の種類及び属性・個人情報の取り扱いに関する契約がある場合はその旨を自社広告内または取得フォーム内に明記いたします。④お預かりした個人情報について、その利用目的の範囲内において、個人情報の保護に関する当社の基準を満たす企業・個人に、取り扱いを委託する場合があります。⑤当社が保有する個人情報について、ご本人から開示・訂正・追加・削除・利用停止のお申し出があった場合、適切に対応いたします。⑥当社への個人情報のご提供はご本人の任意ですが、ご提供いただけない場合、あらかじめ明示した目的を達成できない場合があります。⑦当社の個人情報の取り扱いに関する苦情・相談その他お問合せは、下記窓口までご連絡下さい。
個人情報保護管理責任者 / 経営戦略部長
個人情報に関する問合せ窓口 / TEL:06-6479-3113(受付 / 平日9:30~18:00)

CONTENTS

- 地域医療のかたち
- Hello ご近所ドクター
- ワタシのかかりつけ医
- 専門医療にせまる

Interview

地元の先生の人柄や医療への取り組みがわかるよう
編集部が先生にインタビューしてきました。



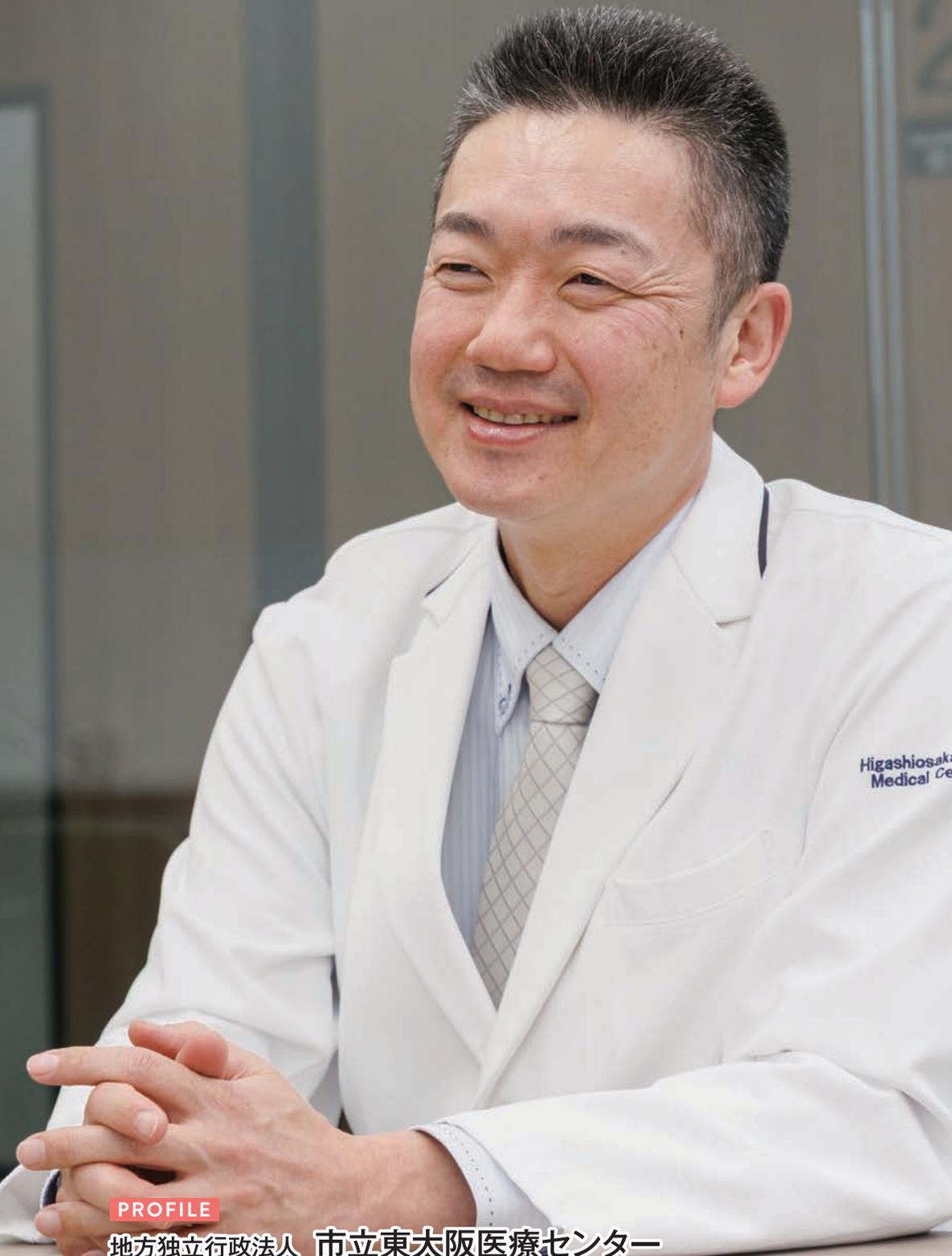


地域医療のかたち

東大阪市西岩田

難しい真珠腫性中耳炎も
積極的に手術で治療
生活の質を上げる呼吸改善

耳鼻咽喉領域の疾患は生活の質に影響し、時には生命にも関わる。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の指導医の資格を持ち、多くの手術を手がけている森鼻哲生先生に、その治療の重要性についてうかがった。



PROFILE

地方独立行政法人 市立東大阪医療センター

森鼻 哲生 耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長

重い中耳炎や副鼻腔炎

手術で治す高度な手技 難病も根気強く伴走

中耳炎はよく聞く耳の病気だが、なかでも真珠腫性中耳炎は骨を溶かして脳にまで影響し得る怖い病気だ。真珠腫は表皮が鼓膜の内側に侵入し、皮膚から出たカスが塊となって形成されたもの。「先天性と後天性があり、後天性の原因として、鼻をすすって鼓膜がへこむことで発症しやすくなる」と言われています。鼻炎の方は比較的风险が高いですね。初期では症状はほとんどありませんが、やがて耳だれ、耳痛、難聴、めまい、顔面神経麻痺にまで進展します」。全年齢で発症する可能性があります。子供の頃に渗出性中耳炎にかかったことがあることもリスクの一つだ。手術でしか治療できないが、その手術が非常に難しい。しかし森鼻先生は指導医の資格を持ち、耳の手術の経験が豊富な医師。真珠腫性中

耳炎の手術も数多く執刀しているので、安心して受診してほしい。

副鼻腔炎、いわゆる蓄膿にも怖い種類がある。好酸球という白血球の一種が過剰に増えてポリープになる好酸球性副鼻腔炎は、強い鼻詰まりや嗅覚障害を起こし、治療しても再発しやすいため難病に指定されている。「最近是自己注射していただく、バイオ製剤のいい薬が出ていますが、根気よく通院することで良い状態を維持する病気です」。病気とも医師とも長い付き合いになるだけに、信頼できる医師と出会えるかどうかが重要だ。森鼻先生は好酸球性副鼻腔炎の症例も数多く扱っており、ほかの病院で治療がうまくいかず森鼻先生を頼って来られる患者も多い。

好酸球性を含め副鼻腔炎は内視鏡やナビゲーションを使い、全身麻酔で手術を行う。最近では日帰り手術に対応するクリニックもあるが、入院は高齢者や局所麻酔に不安を覚える方に適しており、その後の合併症の管理の観点からも安心だ。



1.右が正常な鼓膜の様子。左が真珠腫性中耳炎がある鼓膜。白く光沢のある腫瘍であることからその名がつけられた 2.内視鏡を取入れた診察の様子 3.内視鏡の位置を示すナビゲーションシステムを利用した手術

子供の睡眠時無呼吸

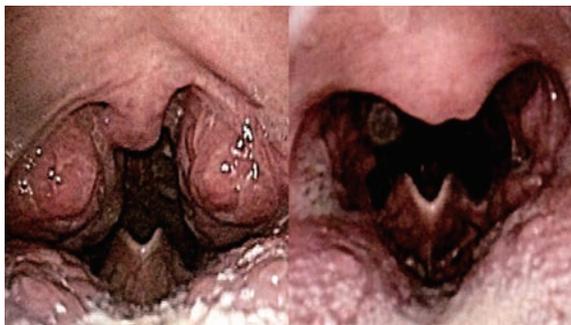
手術で口呼吸を改善し 健やかな睡眠と成長を

喉の病気では、小児のOSAS(閉塞性睡眠時無呼吸症候群)に対して注意を喚起している。「OSASは、口から見える扁桃や鼻の奥にあるアデノイド(咽頭扁桃)が肥大し、鼻呼吸がしづらい状態です。お子さんがいつも口を開けている、昼間なのに眠そうにしているなどで親御さんが気付かれることが多いですね。鼻呼吸ができないと様々な弊害が発生し、夜寝づらい、いびきをかく、おねしょ、集中力の低下、怒りやすい、食が進まず体の成長が遅いこともあります。また鼻呼吸だと吸い込んだ空気を鼻腔で適度に加湿したり、粘膜等でウイルス、菌、異物を除去できますが、口呼吸だと乾いたままの異物を含んだ空気が体内に入ることになり、風邪を引いたり体調を崩しやすいくということもあります」。治療は扁桃を切除または摘出する手術が主になる。1時間程度の手術で入院期間は5〜6泊、アデノイドだけの手術なら2泊で済むため、子供でも負担は少ない。成長途中の子供にとって、睡眠と鼻呼吸は重要だ。そしてOSASは手術さえすれば劇的に改善できる。ちょっと睡眠が浅い子、いつも口が開いている子などと軽視せず、子供の成長を促す観点からも積極的に治療してほしい。

放置されがちな鼻閉

呼吸を改善すれば 生活の質が上がる

子供の頃に扁桃の肥大を指摘されていたのに放置していたり、鼻中隔湾曲症で鼻呼吸ができていない大人も意外に多いそう。「鼻閉のために睡眠が浅くなったり、勉強や業務の集中力が低下することがあります。そういう方が手術で鼻呼吸ができるようになると、生活の質が上がって非常に喜ばれます」。たかが口呼吸、呼吸はできているからこれでもいい、と考えず、治療と改善をお勧めしたい。「難聴にしろ鼻閉にしろ、長年放置していると慣れてしまっているのですが、生活の質は確実に削られています。健康と快適な生活のためにも、ぜひご相談ください」。



左は肥大した扁桃腺の様子。右は手術後の画像。手術後は口内のスペースが大幅に広がることで、以前と比べて呼吸が楽になる



画像検査と多角的評価で
認知症を診断
身体合併も取りこぼさない

市立東大阪医療センターは様々な身体科が充実しているだけでなく、精神科も有した稀有な総合病院だ。広く社会に貢献する体制と役割について、精神科部長の木内邦明先生にお話をうかがった。

PROFILE

地方独立行政法人 市立東大阪医療センター

木内 邦明 精神科部長

認知症・MCI外来

認知症のタイプを判別 早期治療で進行を遅らせる

精神科では毎週火曜の午後に認知症外来を開設している。「認知症外来は脳神経内科でも開設していますが、そちらとの違いは妄想や幻覚などの精神症状が出ている患者さんも診療できる点です」。診療の流れとしては、まず地域のクリニックから市立東大阪医療センターの地域医療連携室へ患者が紹介される。その時点で、脳神経内科が診るか、精神科が適しているかが判定される。一般的に、認知症患者は認知症と診断されるのを嫌い進んで受診することとはなく、ご家族が困るといふパターンが多い。しかし付き合いが長く信頼関係を築いているかかりつけ医からの勧めであれば、比較的素直に受診してくれるそう。「まず一般的な身体診察から始まり、MRI等を使った脳画像検査や、公認心理士による

認知機能検査を行います。だいたいはその結果でアルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型といったタイプを判別できます。それでも判別できない場合は核医学検査も行います」。レビー小体型認知症の検査に用いるDATシンチグラフィや、アルツハイマー型認知症の検査に有効な脳アミロイドPETといった、核医学検査の設備が整っているからこそ詳細な検査が可能となっている。これらの検査で判別した上で、記憶障害、見当識障害といった中核症状の進行を遅らせる薬や、妄想、幻覚などの周辺症状を抑える薬による治療が始まる。

加えてMCI（軽度認知障害）外来も開設しており、こちらは物忘れで悩んでいる方が自身の判断で受診されることが多いそう。もしMCIと診断されても、アルツハイマー型の予備群であれば抗アミロイドβ抗体薬という効果の高い新しい治療薬があるため、早期診断によって進行を大きく遅らせることができる。



1.認知症認定看護師、公認心理士が所属し、多職種連携による診断、治療が行われる 2.脳の画像を元にした分かりやすい説明 3.病棟をラウンドし、認知症を併発している入院患者の対応についてアドバイスしている

総合病院の精神科として

薬の整理に対応 入院患者のリエゾンも

認知症以外にも、うつ病や統合失調症など精神科の一般疾患を広く診療しているほか、処方薬の整理の相談も受けているそう。「精神科のクリニックで睡眠薬や抗不安薬を処方されている方は、いつの間にか薬の種類が多くなり過ぎていくことがあります。そういった方が内科等のかかりつけ医に受診した際、この薬の量は心配だということや、かかりつけ医からこちらへ紹介されることがあります」。睡眠薬などは依存性があるだけに、適切に服用するための整理も大切だ。

入院患者に精神疾患が見られる場合、精神科が協力するというケースもある。「食欲不振が続いて入院したけど、検査では異常が見られず、うつ病や精神疾患が疑われるという相談を受けることもしばしばあります」。実際に精神疾患と診断されると、精神科の入院病棟がある病院に紹介し、適切な治療が受けられるよう手配している。

がんの告知を受けて精神的なショックが大きく、不眠に陥る患者もいる。「当院には緩和ケア病棟があり、がん患者さんの心のケアについて相談を受けることもあります」。このように入院患者に対する精神科リエゾンも積極的に展開している。



認知症の検査では、日時や場所といった見当識、封筒に宛先を書いて切手を貼る作業能力、身近な物品の名称が言えるかどうかなども加えて、総合的に診断される

広く受け入れる精神科

合併の患者も診られる 総合病院の強み

精神疾患のある患者が骨折やほかの病気を合併しても、身体科だけの病院では入院できないことがある。木内先生はそうした状況を憂いていたが、身体科と精神科の連携を模索している同センターを知り、その熱意に共感して赴任されたそう。「実際に、こちらでは多くの精神疾患合併の患者さんを受け入れていきます。ほかの病院には入院できず困っている患者さんの受け皿となっているという点で、地域医療に貢献できているのではないのでしょうか」。これまで見過ごされていた患者の抛り所となり、適切な治療を提供できよう努めている。



地域医療のかたち

八尾市龍華町

患者送迎車両の運行開始や 地域医療連携の推進で 市民の医療ニーズを満たす

八尾市における中核病院の一つとして、地域の様々な医療課題に立ち向かっている八尾市立病院。現在行っている活動や医療連携の取組みについて、病院長の藤田先生にお話をうかがった。

PROFILE

八尾市立病院

藤田 淳也 病院長・地域医療連携室室長

八尾市民への貢献

送迎車両の運行開始と 市民公開講座の開催

昭和25年の開院以来、八尾市の中核病院として市民の健康を支え続けている八尾市立病院。同院は公立病院であり、民間病院では対応が困難な医療を提供するなど、市民にとってなくてはならない存在であるが、八尾市の一部地域からはアクセスがしづらいという課題があった。そこでより市民がアクセスしやすくなるよう、今年の3月2日より患者送迎車両の運行を開始した。「当院はJR『久宝寺駅』から徒歩5分という場所にあるのですが、八尾市全体で見ると西の端に位置し、JR沿線にお住まいの方以外は『通院しづらい』という声があがっていました。そこで市民の皆様のご要望にお応えするため、患者送迎車を運行することいたしました。近鉄大阪線『河内山本駅』と当院を



1.今年3月から運行を開始した送迎車両 2.八尾市と共同で開催したフレイル講座の様子 3.藤田先生は上部消化管外科を専門とし、胃がんや食道がんなどの一人ひとりの患者さんに対して最適な治療を提案している

結ぶ「えだまめ号」、地下鉄谷町線「八尾南駅」「出戸駅」と当院を結ぶ「わかごぼろ号」の2ルートがあり、平日のみの運行となりますが、予約不要かつ無料でご利用いただけます。詳しい運行情報は病院の公式サイトで案内しております」と、病院長の藤田先生は語る。八尾市民に同院で行っている診療について、正しくより深く知ってもらうため、およそ2カ月に1度の頻度で市民公開講座を開催している。「通常は院内の会議室にて患者さんの関心が高いテーマで講座を開催しますが、年に数回八尾市と協力して院外でも講座を開催しています。昨年11月には、八尾市糖尿病予防集中キャンペーンに合わせて糖尿病対策の講座を、今年2月には、八尾市フレイル予防月間に合わせてフレイル対策の講座をコミュニティセンターにて実施し、多くの方にご来場いただきました。今後も皆様の健康寿命延伸を願い、様々な講座を開催していきたいと考えています」。

地域医療連携の強化

スムーズな医療連携のため 専門外来を新たに設置

同院は大阪府から地域医療支援病院として承認されており、地域の医療機関との連携強化に力を入れている。現在行っている取組みについて藤田先生に詳細をうかがった。「患者さんができるだけスムーズに受け入れられるよう、開業医の先生や近隣の医療機関に向けた専門窓口をいくつか設置しています。循環器の疾患は急を要するケースが多いため、循環器内科の医師と直接通話ができるホットラインを運用しています。ニーズの大きい消化器患者さんの紹介に対しては、昨年7月から『消化器疾患専門外来』『肝疾患専門外来』を平日午後15時から17時半まで延ばして急を要する診察や検査、さらには緊急入院に対応できるようにしました。また、近年注目されつつある肥満症に対しては『肥満症専門外来』を開設し市民の皆さんの健康寿命の延伸を目指しています。藤田先生はこうした取組みを周知するため、八尾市立病院の登録医を対象とした勉強会や研究会を定期的に開催し、病院の設備を視察できるツアーなども行っているという。同院と地域の医療機関の連携が緊密になれば紹介・逆紹介がスムーズになり、患者さんにとってメリットは大きいだろう。

周産期医療の取組み

NICUを設置し 赤ちゃんの生命を守る

がん診療をはじめとした急性期医療の提供を使命とする同院だが、地域周産期母子医療センターの認定も受けており、小児周産期の診療にも注力している。「早産や低出生体重児、または何らかの病気を持っている赤ちゃんに対し、治療・看護ができるNICU(新生児集中治療病棟)があり、NMCs(新生児診療相互援助システム)の協力施設として、他施設で出生したお子さんの受け入れも行っています。また、少しでも身体に負担なく出産ができるよう無痛分娩の対応も進めており、令和8年度には実施ができる予定です」。無痛分娩に対応する医療機関は八尾市には少なく、同院への期待は大きい。



藤田先生は地域医療連携室室長を兼任しており、チームで医療連携の強化に注力。地域の医師と顔の見える関係を重視し、登録総会や勉強会を積極的に開催している



八尾市の医療課題である 糖尿病と真摯に向き合い 多角的な診療を提供

八尾市では糖尿病の医療ニーズが高く、八尾市立病院では内分泌代謝・糖尿病内科で重点的に診療を行っている。肥満症に対する治療を開始するなど精力的に治療に取り組む木戸先生に、詳しくお話をお聞きした。

PROFILE

八尾市立病院

木戸 里佳 内分泌代謝・糖尿病内科科長・栄養管理科科長

内分泌代謝糖尿病内科の特長

多職種でチームを組む 全人的な診療を行う

八尾市が公表している情報によると、市民の約3人に2人は血糖値が高く、八尾市の医療費の1位が腎不全、2位が糖尿病となっており、糖尿病に関連する健康問題が課題となっている。そうした背景もあり、八尾市立病院では糖尿病治療に力を入れている。内分泌代謝・糖尿病内科の強みについて、科長の木戸先生にお話しいただいた。「糖尿病は生活と密着した疾患であり、患者さんの食事や生活習慣を把握して診療をしなければうまく治療ができません。そのため当院では糖尿病専門医、糖尿病療養指導士の資格を有する看護師、管理栄養士、薬剤師、メディカルクラークなどの多職種からなる『糖尿病診療チーム』を構成し、一人ひとりの患者さんに合わせて食事指導や療養指導



1.画一的に診療するのではなく、患者さん一人ひとりの状況に合わせて全人的に治療することを心がけている木戸先生 2.本館2Fにある内分泌代謝・糖尿病センター 3.多職種から構成される『糖尿病診療チーム』

を行いつつ治療をしています。また、当院では糖尿病に関する知識の普及のため、8月と11月を除く毎月第3木曜日に糖尿病教室を無料で開催しています。教室では基本的に医師、看護師、管理栄養士、薬剤師が参加し、それぞれがテーマを設けて10〜15分程度講演します。この教室は糖尿病にかかってもなくても、八尾市民でなくても参加が可能ですのでぜひご利用ください。なお、当科は令和7年度に名称変更を行い、糖尿病だけでなく、下垂体や甲状腺、副甲状腺、副腎などが関係する内分泌疾患全体を診療する科として新たに始動しました。内分泌疾患は診断がつきにくく、一般的な検査で問題が見つからないにもかかわらず、慢性的に体調不良が続くといった事例がよくあります。詳しく検査をすると甲状腺が原因だったということもあるため、原因の分からない体調不良が続く場合、かかりつけの先生にご相談の上、受診いただければと思います」。

肥満症の薬物療法

新たに保険適用された 薬物療法をスタート

肥満は2型糖尿病の重大なリスク要因であり、肥満に糖尿病を合併すると、肥満症と診断される場合がある。肥満症における糖尿病は、減量することが糖尿病の改善につながる。肥満は独力では改善が難しいケースもあるが、令和6年2月に肥満症の新しい薬物療法の保険診療が開始され、効果が現れつつあるようだ。八尾市立病院でも肥満に関する治療の対応をはじめたこと、詳細をお聞きした。「肥満症治療薬を処方するためには、厚生労働省が定める施設要件を満たす必要がありますが、当院はそれをクリアし、昨年薬物療法を開始しました。薬を処方するためには複数の条件があり、高血圧・脂質異常症・糖尿病と診断がついて、半年の間食事療法や運動療法を行っても肥満が改善されない、などの場合に処方することができます。薬が適用できるかの判断は難しい場合もありますので、当院では肥満症治療外来を設置し、かかりつけ医療機関からのご紹介患者さんを受け入れています。糖尿病と肥満を併発している、なかなか体重が減少しない場合は、かかりつけの先生にご相談の上、気兼ねなくご連絡いただければと思います」。

糖尿病にならないために

予備軍は危険のサイン 早期の治療開始を

取材の最後に、木戸先生から市民の皆様へメッセージをいただいた。「健診などで糖尿病予備軍(境界型)と診断される方がいらっしゃいますが、予備軍というのは『まだ大丈夫』ではなく『もう危険』というサインで、予備軍と診断された時点から食事療法や運動療法を開始することで、糖尿病に進行することを抑えることができます。糖尿病の診断には、過去1〜2カ月の平均的な血糖状態を示すヘモグロビンA1cという指標が重要となり、この数値が6.0以上だと『糖尿病の疑い』が否定できない『状態』となるため、数値に心当たりのある方は医療機関を受診いただければと思います」。



糖尿病はなってしまうと完治することが難しい病気であるため、予防することが大切。そのため八尾市立病院では、誰でも無料で参加できる糖尿病教室を開催している

がん治療だけじゃない
高齢者のための
日常を取り戻す医療

石切生喜病院は2000年代初頭から呼吸器センターを開設し、東大阪市における呼吸器疾患治療の重要な位置を担っている。20年以上にわたって地域に貢献してきた同センターの取組みについて、お話をうかがった。

泉 信博
呼吸器外科部長

吉本 直樹
呼吸器内科部長

南 謙一
呼吸器センター長

PROFILE

医療法人 藤井会 石切生喜病院
呼吸器センター(呼吸器内科・呼吸器外科)

高齢者肺がん治療

がん治療とフレイル対策 両方できてこそその医療

東大阪市のみならず全国の医療現場において深刻な課題の一つが医師不足。呼吸器内科、呼吸器外科も例外ではない。しかし、ここ石切生喜病院では内科・外科合わせ、13名の医師が在籍する充実ぶり。大阪府下でも有数の陣容だ。呼吸器センターとして呼吸器疾患全般を扱っているが、内科・外科がそろったセンターとしての機能ももつとも発揮されるのが肺がん治療。「内科と外科、さらに多職種がチームとなってカンファレンスを開き、各々の視点から意見を出し合って治療方針を決める多職種連携とチーム医療が機能しているのが強みですね」と話す吉本先生。地域に根付いた中核病院で、肺がんを専門的かつ包括的に診療できる施設は近隣では少ない。そのため、同センターには東大阪市、八尾市、大東市、四條畷市から肺



1.治療中の体力低下によるフレイルの予防のため、呼吸器リハビリ専門のチームがある 2.化学療法室を備え、がんに対して集学的治療を行っている 3.呼吸器疾患の低侵襲手術のため、胸腔鏡を導入している

がん患者が紹介されてくることも多いそう。また、地域が高齢者が多く、高齢肺がん患者の診療に力を注いでいる。南先生によると「高齢者は合併症もたくさんあるため、副作用が少なく、かつ効果的な治療の調整が難しい。また心身が衰えフレイルになるリスクもあるので、それらを加味した治療が必要です」とのこと。高齢肺がん患者の治療は多要素が絡むため複雑で、大学病院でも受け入れが難しいこともある。しかし同センターはそういった患者も受け入れる。「高齢肺がん患者さんにも、ベストな治療を提供できるよう努めています。またフレイルになると副作用や合併症が悪化しやすいため、リハビリの呼吸器チームをつくり、がん治療と並行してADL(日常生活動作)の維持、あるいは以前よりも元気になるよう取り組んでいます」と話す南先生。肺がんは治療できても、寝たきりになったのでは意味がない。元気に自宅に帰って元の生活に戻ってもらうことが、高齢肺がん治療の目的だ。

幅広い呼吸器疾患

複雑化した治療を網羅し チームで最善の答えを出す

肺がん以外にも、喘息、COPD、間質性肺炎をはじめとする各種肺疾患、気胸など、幅広い呼吸器疾患の診療に取組んでいる。「間質性肺炎や肺気腫は肺がんになるリスクが高く、合併症から治療が難しくなるため、密な経過観察が必要です。また気胸などは外科なしには治療が成り立たないことが多いですから、人員が充実し、一人の患者さんに関して複数人が意見を出し合い、吟味できる呼吸器センターの役割は大きいと思います」と吉本先生。また泉先生によると「ここ10年ほどで様々な治療が複雑化しています。当院でも手術支援ロボット・ダヴィンチを導入していますが、外科ではより繊細な手術手技が可能になり、それが良好な結果として表れています。また多職種チームで話し合っただけでベストな治療を考えると、時代ですから、ある程度医師が集まったセンターで、術前から術後までを通して手厚く診て、完結できる病院でしか対応できない治療が増えています」とのこと。同院では現代の医療に求められる体制を維持しつつ、高齢者が多い地域の特性に即して、高齢者医療においては大学病院と同レベルか、それ以上の治療を提供することを目標としている。

困ったときの石切さん

家族が付き添えるよう 土曜も外来診療を開設

平田病院長がキャッチフレーズとして掲げる「困ったときの石切さん」。基本的に高齢者や合併症で弱っていても紹介患者を断らず、患者の話聞き、チームで話し合っただけで最善の治療を見つければいい。その表れのひとつとして、呼吸器センターでは土曜も外来診療を行っている。「土曜も開いていけば、仕事が休みのご家族がおじいちゃん、おばあちゃんに一緒に付き添って受診することもできるでしょう」と南先生。門戸を広く開き、困っている患者を見落とさず受け入れる。それが石切生喜病院の変わらない姿勢だ。



呼吸器内科8名、呼吸器腫瘍内科1名、呼吸器外科3名、さらに呼吸器内科医である平田病院長を合わせて、総勢13名の医師で構成する呼吸器センター



地域医療のかたち

東大阪市弥生町

シームレスな連携による 低侵襲な内視鏡治療 繊細なロボット手術

石切生喜病院では消化器内科・外科が連携し、低侵襲な治療を追求。内視鏡による早期発見・早期治療から、手術支援ロボット・ダヴィンチを用いた繊細な外科手術まで、一貫して提供している。

山村 匡史

消化器内視鏡センター長

松田 恭典

消化器外科部長

末包 剛久
消化器内科部長

PROFILE

医療法人 藤井会 石切生喜病院

消化器内視鏡センター・消化器外科

大腸がんの早期発見

検査を受けやすい配慮で 早期治療につなげる

食生活の欧米化や高齢化など様々な要因を背景に、日本では大腸がんをはじめとする消化器疾患が増加している。大腸がんに関しては内視鏡検査で早期発見・早期治療が可能だが、まだまだ受診率が高いとは言えない。その原因の一つとして、内視鏡検査は苦しいイメージがあるからだろう。その懸念を払拭できるよう、石切生喜病院の消化器内視鏡センターではできるだけ検査にともなう苦痛・負担の軽減に取組んでいる。山村先生によると「当センターは消化器内視鏡学会認定の専門医・指導医が多いんです。大病院と連携して技術の担保はしていますし、指導施設でもあり、内視鏡に熟達した医師の育成にも取組んでいます」とのこと。検査で苦痛を感じるか否かは医師の手腕に依るところが大き



1.鎮静剤を用いた内視鏡検査の後、意識を安定させるためのリカバールーム 2.「できるだけ切らない」をモットーに、内視鏡検査・治療に力を入れている 3.適応の症例には積極的にダヴィンチを用いている

いため、技術の高さが安心につながるのには間違いがない。また、検査には鎮静剤を用いてほぼ眠ったような状態で受けられるようにし、検査後は鎮静剤の影響がなくなるまで専用のリカバールームで休むことができる。高齢者は入院で受けることもできるため、検査前の下剤に関しても心理的ハードルが低いだろう。もちろん内視鏡検査時にポリプや早期がんが見つかれば、病変によってはその場で切除が可能だ。スネアで絞るようにして患部を切り取るEMR(内視鏡的粘膜切除術)はもちろん、EMRは適用できない大きな腫瘍も切除できるESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)に対応している。これら内視鏡下による治療で腫瘍を切除できれば、入院期間は1週間足らず。何より皮膚や筋肉を切開しないため、患者の負担は非常に少なく済む。生命に関わる病気がんであっても、早期発見さえできれば怖いものではない。命を脅かし、大変な治療になる前に、ぜひ内視鏡検査を受けてもらいたい。

消化器外科との連携

スピーディーに方針決定 繊細な手術で直腸を温存

大腸がんは早期発見・早期治療が理想だが、現実全てがそうできるとは限らない。実際、同センターでも進行したがんが見つかることも多いという。そうなれば外科手術でなければ切除できないが、同院の強みは消化器外科もあり、消化器内科と連携している点だ。早ければ内視鏡検査中に外科へ連絡を取り、その場で外科的治療の方針決定までできる。もし外科がなければ、患者は他院への紹介状をもらい、改めてそちらを受診して、と非常に時間も手間もかかる。内科と外科がすぐに連携できるスピード感と、ワンストップで治療を完結できる手間のなさは、患者にとって大きな安心であり、メリットだ。外科手術も近年は低侵襲な腹腔鏡手術が増えているが、同院は手術支援ロボット・ダヴィンチを導入し、大腸がん手術においても適応する症例に用いている。「より繊細な治療が可能のため、従来の腹腔鏡手術では永久人工肛門になるケースでも、直腸を温存し、回避できる可能性があります」と話す松田先生。ダヴィンチは胃がんや肝臓がんの手術にも用いられており、外科手術であっても、可能な限り患者にとって負担の少ない治療を提供できるよう努めている。

増加する膵がん

横断的連携で 患者を見落とさない

消化器疾患では大腸がんだけでなく膵がんも増加しているが、同センターはまだまだ数が少ない胆膵内視鏡を実施できる施設であり、膵がんの早期発見に努めている。「糖尿病は膵がんになるリスクが高く、特に新規発症や、急激に糖尿病のコントロールができなくなった方は膵がんの可能性がります。当院の糖尿病代謝内科と連携して、積極的にリスクの高い患者さんをピックアップし、超音波内視鏡での精査にも対応しています」と話す末包先生。ほかの診療科とも横断的かつ密な連携を維持し、様々な視点から病気を見つけ、必要な治療を提供している。



体位変換せずに様々な角度から体内を観察できるCアーム型透視装置。胆膵内視鏡を用いた処置のほか、上部・下部消化管に対する処置でも利用されている



地域医療のカタチ

八尾市若草町

高まる技術、広がる領域
八尾の高齢化に対応すべく
2名のエキスパートを招へい

上部消化管外科と不整脈の各領域において、昨年2名のエキスパートを招へいた八尾徳洲会総合病院。高齢化が進むなか、各領域における病気のリスクと治療法についてお話をうかがった。

牧田 俊則
循環器内科顧問

金谷 誠一郎
消化器外科顧問



PROFILE

医療法人 徳洲会 八尾徳洲会総合病院

地域の高齢化への対応

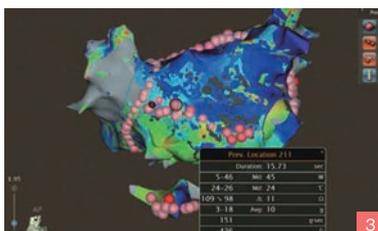
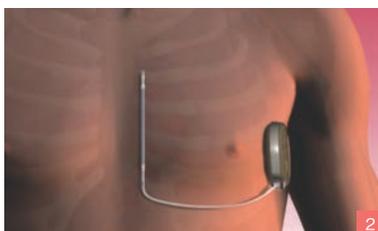
エキスパート2名が参画し 超高齢社会のニーズに対応

「生命だけは平等だ」の徳洲会の理念を柱に、24時間体制の救急医療をはじめ、高度先進医療、在宅医療、予防医療など包括的な医療を実践する八尾徳洲会総合病院。

475床の急性期病院として、年間1万件を超える大阪トップレベルの救急車の受け入れ件数を誇り、診療科の垣根を超えたチーム医療で大阪東部地区に住む人口約100万人の健康を守ってきた。

昨今は八尾地域の高齢化に伴い、還暦以降に罹患率の高まる病気に対応するため、昨年4月に人材面を強化。上部消化管(胃・食道)と循環器疾患において、各分野のエキスパートである2名の医師が同院のチーム医療に参加した。

「胃がんはピロリ菌の除菌治療によって若い方の罹患率は減少してい



1.金谷先生の赴任による技術向上で、食道がんのロボット手術が可能に 2.致命的な不整脈を監視・検知し、突然死を防止するICD(植え込み型除細動器) 3.不整脈の原因箇所である細胞死を誘導するカテーテルアブレーション

ますが、一方で高齢者層では依然として多い疾患です。食道がんも飲酒や喫煙などが起因し、高齢者に好発するので注意が必要です」と話すのは就任早々、専門とする「食道胃外科」外来を立ち上げた金谷先生だ。数々の病院で外科の修練を重ね、直近では大阪赤十字病院で外科部長を務めていた上部消化管外科の専門家である。

一方で、20年以上に渡って不整脈を専門とし、前任地の大阪赤十字病院で不整脈内科を立ち上げた牧田先生にも大きな期待がかかる。「高齢化の進展に伴い、近年は心不全の患者数が大幅に増加しています。その勢いは2035年まで爆発的に急増すると予想され、政府も『心不全パンデミック』と警鐘を鳴らすほどです。不整脈は心不全と互いに原因となり、増悪させ合う悪循環の関係にあります。特に不整脈の代表格である心房細動は、

心臓のポンプ機能を弱めてしまうため、早期介入が欠かせません」。

治療領域の拡大へ

専門医の価値を發揮し より高度な治療を可能に

高齢化に伴う医療ニーズの変化に対応し、先進医療を追求する同院。今回のエキスパート2名の招へいは、まさに診療の高度化と教育体制の強化に直結した。胃がん・食道がんに対しては、90年代から腹腔鏡手術を、00年代からロボット手術をいち早く取入れ、黎明期から低侵襲手術の開発・確立に取組んできた金谷先生の手腕が光る。

「手術はいかに正常の組織を傷つけないか、がん細胞をきれいに切除するかが重要です。腹腔鏡手術やロボット手術は、傷が小さいだけでなく、合併症も少なく、完成度の高い手術です」と自信を見せる。不整脈に対しては、牧田先生の招へいで治療の選択肢が大幅に拡大した。

「不整脈の治療は大きく分けて3つあります。抗不整脈薬などを用いる薬物治療、心臓にカテーテルを通して原因部分を直接治療するカテーテルアブレーション、そしてペースメーカーやICD(埋め込み型除細動器)などのデバイス治療です。私が専門医として赴任したことで、全ての治療を当院で行えるようになりましたので、不整脈の種類や重症度など患者様に応じた治療法を用いて専門医の価値を發揮していきたいです」。

持続可能な地域医療

若手医師の育成により 未来の地域医療の要に

日々治療技術の発展を追求する同院は、今や大阪市内まで行かずとも、同等もしくはそれ以上の医療を提供できるレベルにある。そして、高齢者人口が最大化する2040年問題が迫るなか、領域は違えど2名のエキスパートが口を揃えて説くのは「人材育成の重要性」である。「当院で完結できるクオリティをこの先も担保していくためには、若手育成がカギを握ります。私たちが培った技術と知識を後進へと継ぎ、これからの時代も『生命を安心して預けられる病院』として持続可能な地域医療の要を担っていきます」。



毎朝カンファレンスを実施し、多職種で意見を交換。がん患者の病態や生活背景に応じて、手術・放射線治療・薬物療法など幅広い選択肢から治療方針を決める



地域医療のかた子

八尾市沼

上野 優樹 先生

田中 康仁
足の疾患センター長

伊東 勝也
整形外科統括部長



全ての足の病気に対応し
足から健康と生活を守る
「足の疾患センター」が開設

奈良県立医科大学から足領域のトップランナーである田中康仁先生を招聘し、2025年4月1日に「足の疾患センター」を開設。3名のエキスパートに、センターの特徴についてお話をうかがった。

PROFILE

社会医療法人医真会

医真会八尾総合病院

社会医療法人医真会

医真会総合クリニック

新センターの特徴

2025年4月に 足の疾患センターが開設

昭和63年の開設以来、中河内医療圏で救急医療・急性期医療を提供している医真会八尾総合病院。八尾市の基幹病院の一つであり、リハビリ病院や老健施設、訪問看護や診療所など有する医真会グループの中枢を担っている。幅広い診療科を設けるなか、昨今は地域の高齢化にもなって需要が高まっているのが整形外科だ。同科では整形外科疾患全般に対し幅広く対応し、手・足・脊椎などそれぞれの専門性を活かした質の高い医療を展開。症例数は年間約1100例を超える。そんな同科では2025年4月、新たに「足の疾患センター」を開設した。同センターを指揮するのは、田中康仁センター長。奈良県立医科大学名誉教授を務め、足の病気や外科の



1.豊富な知識を持ち、卓越した手術手技を誇る田中康仁センター長 2.整形外科領域で数々の認定資格を有する統括部長の伊東勝也先生 3.日本整形外科学会専門医の若手ホープとして期待される上野優樹先生

先進的治療法の研究と実践において40年のキャリアを持つ足のエキスパートだ。「足の疾患は、歩行機能の低下や生活の質の著しい低下をもたらすため、適切な診断と治療が極めて重要であります。しかし、欧米と比べて日本では足を専門とする外科医はそこまで多くおらず、様々な足の疾患に対して専門的な治療を受ける機会が未だ十分ではありません。そこで当センターでは足の疾患に精通する3名の専門医がチームを組み、豊富な知識と熟練の技を發揮。診断から治療、手術までを一貫して実践し、歩行機能回復および生活の質の向上に努めています」。専門医による質の高い医療を提供する一方で、大病院にはない小回りの効く診療体制を武器に、治療後のフォローアップにも注力。病期・病態に応じたりハビリにおいては急性期から在宅まで、グループ内の5施設でフォローしてくれる点も信頼できるポイントだ。

幅広い対応疾患

手術レベルの高さと 地域に根付いた敷居の低さ

足の骨折や外傷をはじめ、外反母趾やアキレス腱炎、足関節の捻挫・靭帯損傷、足部スポーツ障害やリウマチなど幅広い疾患に対応する同センター。田中センター長は特に外反母趾において日本のトップランナーであり、国内でも有数の症例数を誇る。「実際に当センターでも相談件数の多い外反母趾は成人のおよそ30%に認められるといわれ、男女比は男性1人に対し女性10人と、圧倒的に女性に多い疾患です。痛みに耐えながら日々を過ごしている人も多いなか、当センターでは変形の程度、痛みの有無、ライフスタイルなど患者様の状態に合わせて診断。痛みを和らげ進行を抑える保存療法と変形を根本的に治す手術療法を採用し、治療を計画していきます」。そのほか変形性足関節症や関節リウマチに対する人工足関節置換術、足首の捻挫に対する足の靭帯再建術など大病院レベルの高度な医療が提供できる点も同院ならではの強み。同院では救急疾患や入院患者に対する診療を行うため、足に関する日常の様々な痛みや不安についてはまず外来診察を行う隣接の医真会総合クリニックへ相談してみしてほしい。

センターが目指す姿

足の疾患の窓口として 八尾の地域医療に貢献

「八尾地域でもトップレベルの医療技術を誇る当センターの特徴は総合力であり、医真会グループの連携力を發揮しながら、診断から治療、リハビリまでワンストップで提供することができます。年齢問わず赤ちゃんから高齢者まで全ての人の足の疾患に対応します。日常の悩みや慢性的な痛みを我慢することなく、まずはお気軽にご相談ください」。地域における足領域のリーディングセンターとして開設して1年。今後も積極的な先進医療の追求と人材育成によって、地域医療への貢献を目指していく。



センター開設以来、3名の医師が連携しながら数多くの手術件数をこなす。卓越した手術レベルは八尾以外にも広まり、各地から手術依頼を受ける

医療法人
松浦医院

● 外科・内科・整形外科・
リハビリテーション科

PROFILE

堤 真吾 副院長

【プロフィール】O型 / 蠍座 / 琉球大学医学部卒、日本外科学会外科専門医

【趣味】これまであまり運動していなかったのですが、最近怪我をしてリハビリの一環で運動をするうちに運動が習慣になりました。今は無理のない範囲でジョギングを楽しんでいます

【休日の過ごし方】奈良にある実家がお寺なので、土日やお盆は住職として働くことが多いです。檀家さんの毎月のお参りや年忌法要など、様々な活動をしています。なかなかゆっくり過ごせる時間がないので、それ以外は家で身体を休めることが多いです

堤 真吾副院長

瓢箪山住民の健康のため幅広い診療を提供



近鉄奈良線「瓢箪山駅」から北へ徒歩約8分の距離にある同院。外科と内科のどちらにも対応し、老若男女を問わず多くの方が訪れる

**患者さんのニーズを重視し
親身な診療を行う**

地域住民の健康を第二に考え、40年以上瓢箪山で患者さんを見守り続けてきた松浦医院。堤先生はかつて勤務していた琉球大学病院の医局で院長の松浦先生と出会い、その縁で松浦医院で働くこととなった。「院長は実家の承継のために私より2、3年早く帰阪され、その後私の父の体調が悪くなつて奈良に帰ることになつた際、一緒に働かないかとお誘いいただきました。私の実家は寺院で住職として活動する必要があったのですが、そのことに理解を示していただけだったので、ここで働かせていただくことにしました」と堤先生は語る。

現在堤先生は住職としての活動も行いながら、その経験を糧にして患者さんと向き合っている。「病院とお寺を同じに考えてはいけない部分もありますが、檀家さんの求めていることを汲み取る力は診療にも生かすことができます。傾聴の姿勢で患者さんのニーズを引き出し、親身な対応ができればと考えています」。



1.内科を主担当とする岸垂矢子先生。患者さんの立場に立って診療することを心がけていて、女性ならではの視点で患者さんの悩みに寄り添っている 2.同院は介護事業にも力を入れており、医院から徒歩約5分の場所にデイサービス八福を運営。その八福で利用者さんの心を温めている、セラピードッグの「真奈美」ちゃん

3名の医師で協力しあい 柔軟に患者さんを診療

同院では現在、院長の松浦先生と副院長の堤先生、女性医師の岸先生の3名が中心となって診療を行っている。松浦先生と堤先生が外科の診療を得意とし、岸先生は内科の診療を得意としているが、主訴にかかわらず患者さんの希望に合わせて医師を選ぶことができる。診療体制について岸先生はこう語る。「女性患者さんの場合、いつもは院長や副院長が診察を担当していたとしても、褥瘡(じよくそう)などでデリケートな部分を見せる必要が生じた時、恥ずかしいと感じるのは当然なこと。逆に男性患者さんも、女性には相談しづらいことがあるかと思えます。そのため患者さんの意思を尊重し、専門分野に限らず患者さんの希望に沿って診療を行っています。専門以外のことだと詳しく分からないこともありすが、それをカバーするため、採血結果は私が目を通して、画像検査の読影は堤先生が行うなど、院内で協力し合える体制を整えています。また、週に一度は循環器内科の先生と消化器内科の先生にお越しいただいているので、身体の広い範囲を診療することが可能です。それでも当院で対応することが難しい場合には、速やかに対応可能な医療機関を紹介しますので、健康についてお困りのことがあればどんなことでもお話をさせていただければと思います」。

地元住民の健康を願い 休日診療や訪問診療に対応

できるだけ多くの地域住民を支えることを目標としている松浦医院では、働く世代の方でも気軽に受診ができるよう、第・第三を除く日曜日の診療や、祝日の診療を行っている。また通院することが難しい患者さんのため、訪問診療にも対応している。訪問診療の詳細について、堤先生にうかがった。「当院をかりつけのクリニックにしていたら、際当院を紹介された方を対象に、通常は2週間に1回を目安に訪問診療を行っています。訪問診療では採血のほか、レントゲンや超音波検査をすることが可能で、もし異常があった場合には病院を速やかに紹介しています」。そのほか同院は介護事業にも注力していて、在宅での生活に困難が生じた際シームレスに受け入れを行える。堤先生は最後

にこうメッセージを残した。「当法人では地域包括支援センターやデイサービスなどを運営しており、希望があった場合にはすぐにご相談いただけます。当院のスタッフは皆「慣れ親しんだ地元で安心して過ごしたい」と願っている方をできるだけ限りサポートしたいと考えていますので、不安を抱えている方はご相談いただければ幸いです」。

教えて先生!

健康診断で異常を指摘されたのですが、症状がなくても受診すべきでしょうか?

自覚症状がなくても将来的なリスクが隠れている可能性がありますので、予防のためにも一度受診いただければと思います。当院では無理に薬を勧めることはなく、もし処方が必要な場合には、その理由をご説明してご納得いただいた上で処方いたしますので、お気軽にご相談いただければと思います

スタッフからの Message



地域の皆様の健康を支えるため
かかりつけ医として丁寧に診療し
訪問診療にも対応いたします

瓢箪山で暮らす人々が長く健康でいられるよう、できる限り診療をお断りせず、かかりつけ医として患者さんに寄り添って診療することを心がけています。もし通院が困難になった場合には訪問診療のご相談も可能ですので、気兼ねなくお伝えいただければと思います

PROFILE

山林 一公 先生

【プロフィール】O型 / 山羊座 / 大阪
歯科大学卒 / 東大阪市出身 / 歯学
博士、日本顎咬合学会の認定医、日本
抗加齢医学会の専門医、日本歯科麻
酔学会の登録医

【趣味】週に4日ほどジムに行ってい
て、体を動かす時間を大切にしています

【休日の過ごし方】近畿エリアを中心
に、ドライブも楽しみつつゴルフに行くこ
とが多いです。2カ月前、インプラントの
学会に参加するためにハワイへ行った
のですが、その時も空き時間にゴルフを
楽しみました。美しい景色に囲まれなが
らプレーすることができ、心身ともにリフ
レッシュできました

山林 一公院長

矯正歯科の重要性に着目し生涯を見据えた歯科医療を提供



一般歯科、予防歯科、矯正歯科、インプラント治療まで幅広く対応。痛みがある歯だけを治療する対症療法ではなく、原因に踏み込む歯科医療を実践している

**将来の歯を守る
矯正歯科という選択**

山林歯科医院では患者の口腔内を長期的に捉え、将来起こり得るリスクまで見据えた診療を重ねてきた。診療では歯科医師や歯科衛生士だけでなく、管理栄養士も連携し、全身の健康状態を評価。噛み合わせや歯列、食生活までを含めた多角的な視点から、患者ごとに最適な方針を提案している。こうした総合的な診療スタイルが評価され、遠方からの来院やセカンドオピニオンの相談につながるケースも多い。また近年、同院が特に注力している分野が矯正歯科である。これまでインプラント治療を数多く手がけてきた中で、「若い時期に歯並びを整えていれば、将来インプラントが不要だったケースも少なくない」と実感する場面が増えたことが背景にあるという。歯を失ってから補うのではなく、歯列と噛み合わせを整えることで、将来のトラブルを防ぐ。そうした予防的視点から、矯正歯科への取組みを強化している。



- 1.口周りや口腔内をマッサージし、口腔周囲筋・口腔底筋などを正しく整えるオーラルセラピー。口臭や歯周病の改善にも効果がある
- 2.口の中から表情筋や唾液腺にアプローチするセルフケア用のマッサージツール。顔のむくみ、たるみ、ほうれい線の改善、口角アップ、唾液分泌促進などが期待できる

経験と実績を基に 一人ひとりに最適な矯正を

山林院長は矯正治療をはじめめるタイミングについて「矯正は10〜20代がするものと思われがちですが、年齢ではなく整えたいと思った時が適切な時期であり、50〜60代、さらには70代でも状態に応じて治療をスタートすることは可能です」と話す。実際、同院には若年層だけでなく、中年層でも歯並びや噛み合わせの問題に気づき来院する患者が多い。歯磨きをきちんとしているにも関わらず虫歯や歯周病を繰り返す背景には、歯列不正による清掃不良や、噛み合わせの偏りによる過度な力が関係しているケースが少なくない。治療法としては、最新のマウスピース矯正（インビザライン）と、これまで数多くの実績があるワイヤー矯正の両方に対応。見た目の希望だけでなく、歯の動きや治療期間、最終的な仕上がりを総合的に判断し、必要に応じて双方を組み合わせることもある。マウスピース矯正においてはシミュレーションソフトを活用し、治療前後の歯列変化を視覚的に提示。感覚的な説明に頼らず、根拠をもって治療計画を共有することで、納得度の高い矯正治療を実現している。断片的な情報に惑わされがちな時代だからこそ、個々の骨格や噛み合わせまで踏み込んだ診断力に信頼が集まっている。

ライフステージに応じた 口腔機能サポート

同院では、口周りの筋肉が十分に発育していない口腔機能発達不全症や、加齢や疾患、障害により口周りの筋力や飲み込む力が衰える口腔機能低下症の診療にも注力している。いずれも、噛む・飲み込む・話すといった基本的な口腔機能が十分に発揮されない状態で、放置すれば歯並びの乱れや虫歯・歯周病に加え、全身の健康にも影響を及ぼすことがある。子どもに見られる口腔機能発達不全症では、舌や口唇、頬など口腔周囲筋の正しい使い方を身につけるトレーニングや、管理栄養士による食事指導を治療の軸としている。筋機能を整え、歯列や噛み合わせが安定しやすい土台をつくるのが目的だ。高齢者を中心とする口腔機能低下症に対しては、検査による評価を行った上で、口腔トレーニング

と食事指導を実施。こうした機能訓練により状態が改善した患者には、良好な口腔環境を維持するためのオーラルセラピーを行い、後戻りを防ぎながら健康な状態の定着を図っている。子どもから高齢者まで、人生の各段階に応じた口腔機能を支える診療体制が、長く通い続けられる理由となっている。

教えて先生!

マウスピース矯正を希望していますが
ワイヤー矯正や抜歯が必要な場合がありますか？

治療法や抜歯の有無は、歯並びや噛み合わせ、骨格の状態などを丁寧に確認した上で判断します。症例によってはマウスピース矯正が適している場合もあれば、ワイヤー矯正を組み合わせた方がよいこともあります。当院では一人ひとりの状態に合わせて、無理のない治療方法をご提案しています

スタッフからの Message



治療法に左右されない
安心の料金体系で
矯正治療をサポートします

当院の矯正治療は、マウスピース矯正、ワイヤー矯正、双方の併用のいずれを選択しても、治療費が変わらない料金体系を採用しています。治療中の不安や疑問にも丁寧にお応えし、患者さん一人ひとりのペースに寄り添いながら、ゴールまでしっかり伴走いたします

医療法人治心会 なかむらクリニック

●内科・循環器内科・
心臓リハビリテーション科

PROFILE

中村 治夫 院長

【プロフィール】A型 / 射手座 / 大阪市立大学医学部卒 / 香川県出身 / 日本内科学会認定内科医・内科指導医、日本循環器学会認定循環器専門医

【趣味】昔は世界の美しい景色を求めて海外へ行き、各地で写真を撮っていました。南米ペルーのマチュピチュは、今でも印象に残っている場所です。

【休日の過ごし方】子供たちと遊ぶことが多いです。長期休みには実家のある香川へ帰省することもあります。最近では長女と海遊館に行くなど、二人の時間を楽しむことも。以前のように海外を旅する機会は減りましたが、今は家族と過ごす時間が何よりのリフレッシュになっています。

中村 治夫院長

心臓リハビリテーションで守る未来の健やかな生活



自宅でも体を動かすことができるようにクリニックのオリジナル運動動画をYouTubeで公開中。希望者にはDVDの提供も行っている

**継続率は80%以上
楽しく続ける心臓リハビリ**

心臓や血管に関する疾患は、治療後の過ごし方が将来の生活を左右する。心臓リハビリテーションは体力の回復だけでなく、再発や再入院を防ぎ、生活の質を維持・向上させるための重要な治療法だ。なかむらクリニックでは、理学療法士や看護師、健康運動指導士が心電図や心拍数、血中の酸素量をモニタリングしながら、安全性に配慮した心臓リハビリを実施。ウォーキングマシンや自転車エルゴメータ、ゴムバンドを使った筋力トレーニングなどを組み合わせ、患者一人ひとりの体力や目標に合わせた運動プログラムを提案している。同クリニックの心臓リハビリの特長は、継続率の高さにある。スタッフが体調や不安を丁寧に確認し、その日の状態に合わせて柔軟にメニューを調整。スタッフとの会話や励ましも大きな支えとなり、前向きな気持ちで取り組める環境が継続率の高さにつながっている。



1.「ふれあい運動教室」の参加者からは、「ストレッチをする時間が増えた」「日常生活で動くのが楽になった」という声が寄せられている
2.「ふれあいまつり」では心臓リハビリのほか、骨密度や動脈硬化の検査、筋肉量・体脂肪量が測定できるInBody(体組成)も体験できる

教室やイベントを開催 地域と進める健康づくり

同クリニックでは近年、通院患者や地域住民の健康を支える教室・イベントの開催にも力を入れている。通院患者を対象とした「ウォーキングイベント」は、クリニック周辺を30〜40分ほど歩くプログラムで、屋内のリハビリ室を離れ、景色を変えて体を動かすことで気分転換にもつながっている。単調になりがちなりハビリに変化を持たせることで、楽しみながら続けられる工夫を重ねている。八尾市とは「健康まちづくり共創協定」を結び、市の特定健診で運動の必要性を指摘された一部の住民を対象に「ふれあい運動教室」を実施。現在の参加者は50〜70代が中心で、ストレッチや筋力トレーニングなど、自宅でも続けられる運動内容を理学療法士や健康運動指導士が丁寧に指導する。正しい運動方法を身につけることで、自ら体を動かす習慣づくりへと導いている。さらに、患者以外の地域住民も気軽に参加できる「ふれあいまつり」も継続的に開催。心臓リハビリの体験ブースや健康チェックを通して、循環器疾患の予防と運動習慣の大切さを伝えている。子供向けのブースや景品付きスタンプラリーも用意しており、家族で楽しみな健康について考え、世代を超えて健康意識を共有する場となっている。

ダイエット外来にも対応 重症化を防ぐサポートを

循環器疾患の予防において、健康診断の役割は大きい。同クリニックでは八尾市特定健診や企業健診、個人健診に対応している。健康意識の高まりもあり、年々受診者数は増加しているという。中村院長は「数値が基準を超えはじめた段階で、ご自身の体の状態を知るためにも一度相談してもらいたい」と呼びかける。生活習慣病は自覚症状が出にくく、症状が現れた頃には病気が進行していることも少なくない。だからこそ早めに確認し、生活を見直すことが将来のリスク軽減につながる。また近年増えているのが、30〜50代のダイエット外来における相談だ。健康診断でコレステロール値や血糖値を指摘され、「そろそろ痩せないと」と感じながらも、自力では改善が難しい人も多い。同クリニックではまず血液

検査や健康診断結果などを基に体の状態を丁寧に把握し、食事や運動の見直しを提案。必要に応じて薬を使った治療も検討するが、目標はあくまで生活習慣を整えること。心臓病の患者の治療後の支援から、生活習慣病の予防、早期発見・治療まで、地域の循環器医療を支える存在へと歩みを広げている。

教えて先生!

健康診断を受けたら血圧が140以上になりました。病院に相談したほうがいいですか?

血圧が140以上になり、測定数値が正常の範囲を超えている場合は、一度医療機関へ相談することをお勧めします。軽度の数値異常でも重症化のリスクがあり、生活習慣の見直しで改善できる場合がありますので、自覚症状がなくても、早めに現状を確認することが将来の病気予防につながります

スタッフからの Message



体力や血管の機能を高める 心臓リハビリを もっと身近な選択肢に

心臓リハビリの対象となる場合でも、その存在を知らないまま過ごされている方も少なくありません。心臓リハビリは再発予防だけでなく、健康寿命を延ばすためにも大切な取り組みです。スタッフ一同でサポートいたしますので、まずはお気軽にご相談ください

PROFILE

栗岡 宏彰 院長

【プロフィール】O型 / 蟹座 / 金沢医科大学卒 / 奈良県出身 / 日本内科学会総合内科専門医、日本救急医学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本緩和ケア学会会員

【趣味】自宅で映画やドラマを鑑賞することです。NetflixやU-NEXTなどのサブスクリプションで配信されている、話題の作品をよく見えています

【休日の過ごし方】休日にはホームセンターに行くことが多いです。陳列されている様々な商品を眺めながら、DIYのアイデアを考えたりするのが楽しいです

栗岡 宏彰 院長

在宅で生きる選択を支える医療と介護が担う看取り



在宅医療が困難になった人の受け皿となる「しろばと緩和ケアホーム」。2Fではデイサービスを実施し、今年1月からは「しろばの家」との連携も図っている

看取りと向き合うことは暮らしを支えること

「自宅で最後を迎えたい」という願いに寄り添い、18年にわたり在宅医療の現場を走り続けてきた栗岡先生。介護力が足りないことを理由に、家族が自宅での看取りを諦めなくて済むよう、現場スタッフがその目線を共有し、最後まで支え切る体制を築いてきた。医療の高度化により病院死が一般化する中で、在宅医療の重要性が改めて見直されている。一方で、自宅での看取りを担える家族の数は、この十数年ほとんど増えていない。その受け皿として重要になるのが、医療と介護が連携し、看取りに対応できる施設の存在である。以前は最期まで支えることが難しかった施設も、在宅医療との連携を深め、徐々に看取りを担えるようになってきた。「最後まで看取る」ことは、本人とご家族の安心を支え続けること。医療と介護が同じ方向を向き、本人と家族が納得した選択を重ねていくことが、在宅医療における看取りにつながる。



1.9人以下の小規模な老人ホーム「しろぼとの家」。一つひとつの居室は間仕切りで区切られ、プライベート空間を確保しながら、住まいに近い環境で過ごすことが可能 2.既存の住宅を活用することで、コストを抑えた入居サービスを実現。施設内は、足腰の弱い方でも安心して移動できるよう、バリアフリーにも配慮されている

費用面の不安に向き合う 暮らしと医療の選択肢

近年、家族から多く寄せられる相談の一つに、介護や医療にかかる費用がある。年金だけでは生活が成り立たず、貯蓄を切り崩すことへの不安を抱えるケースは少なくない。「お金の心配のせいで最期の過ごし方を諦めてほしくない」という強い思いから、しろぼとクリニックでは今年1月に既存の住宅を活用した小規模な老人ホーム「しろぼとの家」を開設した。新築ではなく既存建物を用いることで建設コストを抑え、入居費用を低く設定している。居室は決して広くはないが、日中はグループ施設「しろぼと緩和ケアホーム」で実施しているデイサービスを利用し、生活の質を保つ工夫がなされている。「年金を超える費用がかかる施設が多くて、不安に思われるご家族は本当に多いです」。栗岡先生の言葉からは、現場で積み重ねてきた実感がにじむ。体調が安定している間は住まいとして過ごし、医療的ケアや看取りが必要な段階では緩和ケアホームへ移行する。二つの施設を柔軟につなぐ仕組みにより、無理のない形で医療と生活を両立させることが可能となった。高額な施設でなければ安心できないわけではない。必要な医療と介護を適切に組み合わせることで、その人に合った暮らしは成立する。費用と安心、その両立を目指す取組は、これからの在宅医療にとって重要なモデルとなり得るだろう。

家族の目線で寄り添う 在宅医療のかたち

栗岡先生が在宅医療の現場で大切にされているのは、医学用語を避け、患者と家族に分かりやすく伝える姿勢である。診療では、言葉や絵を用いながら理解度を丁寧に確認し、治療方針を共に再構築していく。特に高齢者の看取りでは、「老衰」という過程をどう理解するかが重要になる。食事が減り、体力が落ちていく変化は病気ではなく、自然な経過であることも多い。しかし、その変化を知らなければ、不安から救急搬送という選択が取られてしまうこともある。「自宅や施設で過ごしている方にとって、環境が変わらないことには大きな意味があります」。住み慣れた場所で、顔なじみの医療・介護スタッフに支えられながら過ごす時間は、本人にとっても家族にとっても安心につながる。そのために、医師だけでなく

く看護師や介護職にも、「自分の父親、母親だったらどうするか」と考え、作業を心に変える教育を行っている。院内にとどまらず地域でも勉強会を開催し、多職種が顔の見える関係を築く取組みを続けてきた。看取りを目標とするのではなく、看取れる環境を整えること。その先にこそ、質の高い在宅医療と介護の姿がある。

教えて先生!

介護施設の利用を検討する際に
確認しておきたいポイントを教えてください

介護施設によって、対応できる医療の内容や体制は異なります。施設を検討する際には、医師の関わり方や医療機関との連携状況、看取りへの対応可否などを事前に確認し、必要な医療的ケアを受けられる環境かどうかを見極めることが大切です。判断に迷う場合は、当クリニックが運営する「在宅医療介護情報センター」へお気軽にご相談ください

スタッフからの Message



超高齢社会の日本だからこそ
知っておきたい在宅医療
幸せな最期の時間を考える一冊

栗岡先生の著書『自宅で最後を迎えたい』では、在宅医療の役割や看取りの現状について、実例を交えながら分かりやすく紹介している。本人や家族が知っておきたい視点がまとめられており、超高齢社会を迎えた今、その人らしい最期の時間を考えるための一冊である

ワタシの
かかりつけ医

東大阪市末広町

こばやし
内科呼吸器
クリニック

●内科・呼吸器内科・
アレルギー科

専門の呼吸器疾患と 生活習慣病に対応する 地域密着型のクリニック

様々な呼吸器疾患と 生活習慣病の改善に注力

2020年9月に開院し、早くも「敷居が低く相談しやすいクリニック」として地域住民からの信頼を得ているこばやし内科呼吸器クリニック。現在は大きく二つの診療に注力している。一つは近隣や少し離れたエリアから、長引く咳症状で来院する方の診療。もう一つは近隣の方に対する一般内科の診療だ。「専門の呼吸器疾患では、感染症やアレルギーなどで発症する咳症状、喫煙が原因の慢性閉塞性肺疾患（COPD）や間質性肺炎などの慢性呼吸器疾患、睡眠時無呼吸症候群などを診療しています。呼吸器疾患の診断にはほかの疾患より問診や聴診が大切なので、患者さんの話を丁寧に聞くことを心がけています。呼吸機能を検査する装置もあるので、当院で治療できる疾患は対応し、結核や肺がんなど高度な検査や治療が必要な場合は連携病院にご紹介するのでご安心ください」と小林院長。一般内科に対しては「勤務医時代には循環器や消化器など幅広い

今年で開業6年目となるこばやし内科呼吸器クリニック。地域医療に貢献する同院は特に二つの分野に注力しているという。小林院長に注力する分野やこだわりポイントをうかがった。

内科診療に携わってきました。その経験を活かして、生活習慣病を中心に一般内科の診療を行っています。生活習慣病は自覚症状が乏しいまま進行するので、そのリスクを正しく理解することが難しいですが、放置すると命に関わる恐い疾患です。当院では薬の処方の前に、丁寧な問診でその患者さんを理解し、一人ひとりに合わせた生活習慣の改善を提案しサポートしています」と説明してくれた。長引く咳や健診の数値が気になった際は、気軽に相談してみしてほしい。

PROFILE

小林 大起 院長



瓢箪山駅から徒歩10分の好立地。周囲は住宅街で、幹線道路からも近く、地域住民や少し離れたエリアから来院する方にもアクセスが良好

先生のことば

システムの導入で業務の効率化を図り
診療時間は長く、待ち時間は短く

患者さんの話をよく聞き
正確な診療をすることがモットーです!



毎日たくさんの方にご来院いただきありがたい限りです。スタッフを含め忙しい状態が続いていますが、その中でも患者さんとお話する時間を少しでも長く確保して、診療の質を上げたいと思っています。そのために今後は会計業務の自動化など新しい技術の導入やスタッフの増員で、診療以外の部分を効率化していく予定です。

小林大起先生

👉 ここもチェック!

睡眠時無呼吸症候群の
簡易検査にも対応!



心筋梗塞や脳梗塞のリスクにもなる睡眠時無呼吸症候群。いびきや高血圧が手がかかりますが、1人暮らしなどで判断ができない方に向けて自宅で可能な簡易検査機器をお渡しします。精密検査も自宅で受けることが可能です。就寝時に鼻マスクを装着するCPAP療法が適応の方には当院でフォローアップをします。CPAP療法では眠れないという方にはマウスピースでの治療も提案します

こだわりPOINT 1

些細な異変を見抜く「聞く」力

呼吸器内科の診断は患者の病状や生活習慣の問診、心音・呼吸音の聴診が極めて重要であるため、小林院長は「聞く」ことを最重視している。問診では、初診から些細な疑問も話せるような雰囲気づくりを心がけ、患者の話を丁寧に傾聴。聴診では、疾患ごとに音の違いを聞き取り、勤務医時代に培った経験や知見をもとに診断。加えて、肺機能を調べるスパイロメーターをはじめとする呼吸器専用の検査機器も取り揃え、疾患の見逃しを防いでいる。

こだわりPOINT 2

生活習慣病の診療に注力

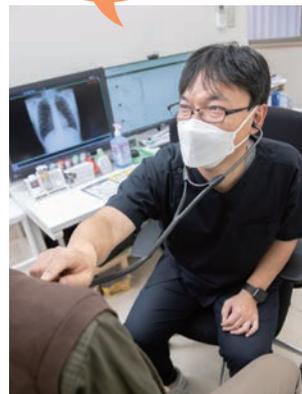
高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病は進行すると脳梗塞や心筋梗塞を引き起こしたり、失明や足の壊死、腎不全による透析が必要になったりする恐ろしい疾患だ。長年の生活習慣が積み重なって発症するため、治療には食事内容の変更など生活習慣の改善が大切になる。そこで同院はただ薬を処方するだけでなく、患者の理解に合わせて生活習慣病のリスクを伝えて、正しい食事量を提案。長期にわたって患者に寄り添い、生活習慣の改善をサポートしている。

こだわりPOINT 3

幅広い診療をカバー 些細なことも見逃さず 多岐にわたる疾患を診療

標榜している科目以外にも今後はより幅広い診療科目に対応する地域医療の提供を目指しています。また、患者さんにわかりやすいように写真や図を使って詳しく診断結果を説明しています。段階的ですが様々な診療科目に携わった経験を活かし、呼吸器内科、アレルギー科以外の診療も提供しますので、些細なこともご相談ください。

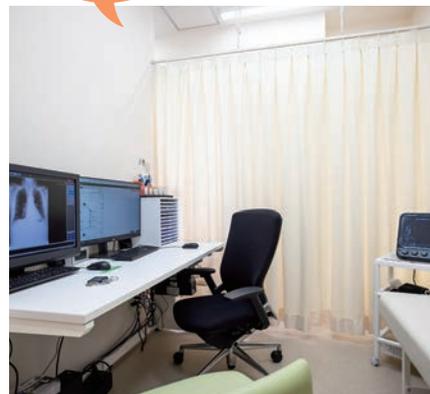
可能な限り
丁寧な診断を
心がける



分かりやすい
パンフレット
で説明!



地域に
根ざした
クリニック!



「敷居が低く相談しやすいクリニック」として
近隣の方を中心に親身で丁寧な診療を提供していく

ワタシの
かかりつけ医

東大阪市日下町

医療法人 基誠会
ふじい消化器内科・
内視鏡クリニック

●消化器内科・内視鏡内科

消化器がんを早期発見 年間3700件以上対応する 苦痛の少ない内視鏡検査

最新鋭の内視鏡機器に加え 快適な検査環境で敷居を下げる

平成26年に、内視鏡クリニックを開院以来、最新鋭の内視鏡機器と人ひとりに配慮された院内環境や処置を徹底することで、内視鏡検査の敷居を下げてきた藤井院長。がん治療においては、症状がでない早期の段階での発見が重要で、そのためには定期的な検査が不可欠となる。「最近では消化器がんの患者数が増加傾向にあり、なかでも女性の死亡数は大腸がんが二位となっています。大腸がんの検査は特に敷居が高く感じられると思いますが、検査で発見したポリープは、その日に治療できるものも多々あります。がん検査の中で唯一、検査と同時にがんになるリスクを下げられる大腸の内視鏡検査こそ、受けていただきたいと思っています」。つらい、苦しい、というイメージがある内視鏡検査だが、一人でも多くの方に検査を受けてもらえるように、そのイメージの払拭に尽力してきた、ふじい消化器内科・内視鏡クリニック。大腸内視鏡前処置で

の独立スペースの確保や専用トイレ、空間除菌脱臭器や空気清浄機などを完備した快適な検査環境に加え、藤井院長とスタッフとの密なチームワークによって、年間3700件以上の内視鏡検査を実施。東大阪を中心にがん撲滅を目指して、消化器がんの早期発見に精力的に取り組んでいる。「健康診断で引っかけた人の約半数は精密検査を受けていないという報告もあります。早期発見・早期治療のためにも、些細なことでもお気軽にご相談ください」。

PROFILE

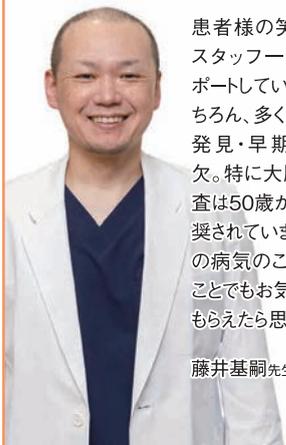
藤井 基嗣 院長



年間3700件以上の検査に対応する、ふじい消化器内科・内視鏡クリニックでは、患者の負担軽減を第一に、快適な検査づくりに力をいれている

先生のことば

早期発見・早期治療が重要 50歳になったら大腸検査を



患者様の笑顔を励みに、スタッフ一丸となってサポートしています。がんはもちろん、多くの疾患は早期発見・早期治療が不可欠。特に大腸の内視鏡検査は50歳からの実施が推奨されています。消化器系の病気のことなら、些細なことでもお気軽に相談してもらえたらと思います

藤井基嗣先生

こだわりPOINT 1

内視鏡システムは基幹病院レベル

正確かつスピーディな検査・治療をモットーとしている、ふじい消化器内科・内視鏡クリニック。検査機器としては、大学病院や基幹病院で導入されている内視鏡システム「EVIS X1CV-1500」を採用。拡大内視鏡や最新の経鼻カメラまでをクリニックレベルで導入している例は少なく、同システムによって従来までの機器よりも鮮明な画像で診断を行うことができる。また、少量の麻酔を用いることによって、ほぼ眠っている状態で痛みや苦しみを感ずることなく検査が行えることから、内視鏡検査の敷居を下げることにもつながっている。

痛みが少ない
検査が
特徴です



こだわりPOINT 2

チームワークが抜群のスタッフ

ふじい消化器内科・内視鏡クリニックでは、スタッフそれぞれの高いスキルと円滑なチームワークも強みのひとつ。不安に思われることが多い内視鏡検査だが、気さくで面倒見の良いスタッフが多く、患者との距離も近いことから、どんな些細なことでも気軽に相談しやすい雰囲気がある。また、スタッフ間のコミュニケーションも優れているので、状況に応じてお互いをフォローするスタイルが確立。内視鏡をはじめとする設備面や快適な院内環境だけでなく、少しでもより良い検査を提供するための改善など、向上心高くさらなるレベルアップに精進している。

お気軽に
ご相談
ください



ココもチェック!

快適な内視鏡検査を叶える くつろぎの院内環境



検査後に使用できるリラクゼーションルームのほか、大腸内視鏡検査の前処置室には、可能な限り一人ずつ専用で利用できる大きなトイレを設置。プライバシーに配慮しながら、ゆったりとくつろげる快適環境を心がけている

こだわりPOINT 3

温かみのある空間に心が癒される

一般的なクリニックのイメージとは異なり、茶と白を基調とした温かみのある院内は、まるでお洒落な美容院や洗練されたホテルを連想させる落ち着いた空間。待合スペースには、スタイリッシュな雰囲気のインテリアや藤井院長が選んだアーティストの絵画が飾られており、男女の人気ファッション誌などが置かれたラックなども設置。来院された患者の心を癒し、快適に過ごしてもらいたいという想いから、院内環境にもこだわっている。また、大腸内視鏡の前処置室にある個人スペースでは、テレビを見ることもできる。

快適空間に
癒される



ワタシの
かかりつけ医

東大阪市菱屋西

医療法人
竹村医学研究会(財団)
小阪産病院

●産科・婦人科・小児科

あなたらしい出産から その先の家族の時間まで 寄り添い続ける産院

医師、助産師とともに考える あなたに合ったお産

小阪産病院では男性医師に加え、近年は女性医師の在籍数が増え、外来の多くを女性医師が担う体制となった。妊娠や出産、体調や気持ちの変化について、同じ女性として、また自身の出産・育児経験を基に話ができる点は、多くの患者にとって安心材料となっている。一方で話しやすさや価値観は人それぞれであり、男性医師に相談したいという声も少なくない。そうした多様な希望にも応えられるよう、男女の医師がバランスよく連携しながら診療を行っている。また同院では「その人に合った出産の私たち」を共に考えていくことを大切にしており、竹村理事長は「無痛分娩においても、全てを医療に委ねるのではなく、お母さん自身の力を引き出すための選択肢の一つだ」と説明しています」と話す。痛みを和らげることだけを目的とするのではなく、安全性を最優先にしながら、出産・育児へ向き合う心と体の準備を整えることに重点を置いている。こうした考えを丁寧に共有する場として、無痛分娩教室も新たにスタート。助産師が中心となり、出産の流れや体の変化、家族の関わり方などを分かりやすく伝えていく。また帝王切開となった場合も、できるだけ早期から回復を促し、家族と過ごす時間を大切にできるよう配慮。一人ひとりの状況に寄り添い、出産後の生活までを見据えてサポートを行っている。



個室を中心とした入院環境は、設備やアメニティを含め、清潔で落ち着いた空間づくりにこだわり、産後の心と体を穏やかに回復できるよう整えている

PROFILE

麻酔科医

松山 広樹先生

伊尾 紳吾院長

竹村 真紀理事長

小児科医

末永 英世先生

先生のことば

夫婦や家族で支え合いながら 出産・産後の時間を大切に



出産はお母さんだけでなく、家族にとっても大切な節目。夫婦や家族で支え合う経験を重ねることで自然と信頼関係が深まり、その後の育児や夫婦関係にも良い影響を与えていきます。当院では夫婦で育児を学び、共に成長していける場を提供していきたいと考えています

竹村真紀先生

ココもチェック!

専属チームが寄り添う ハートフルコース



妊娠から産後1カ月までをサポートする「ハートフルコース」。通院中は少ない待ち時間でスムーズに診療を受けることができ、パースフォトやニューボーンフォトなど、かけがえのない時間を形に残すサービスも用意

こだわりPOINT 1

乳児から小中学生まで対応するワクチン外来

生後2~4カ月の乳児を対象とした「乳児予防接種外来」としてスタートした子ども向けのワクチン外来。開始当初は乳児期に必要な予防接種に対応していたが、「乳児期以降も継続して接種をお願いしたい」「兄弟姉妹も一緒にワクチン接種をしてほしい」といった地域からの声が多く寄せられるようになった。こうしたニーズを受け、現在は乳児期に限らず、小学生・中学生までの予防接種にも対応。接種対象の拡大に伴い、外来名称も「乳児予防接種外来」から「小児ワクチン外来」へと変更している。

兄弟姉妹も
お任せ
ください



こだわりPOINT 2

出産のお祝いに特別ディナーを用意

「出産という大きな節目を終えたお母さんに、心からくつろげる時間を届けたい」。そんな思いから、同院では食事の充実にも力を注いでいる。元リーガロイヤルホテルのシェフが手がけるお祝いディナーでは、味や盛り付けなど細部にまでこだわった料理を提供。さらに近年は入院中の気分転換や母親同士の交流の場として、デザートやお茶を楽しむスイーツタイムを開催している。個室で過ごす時間が多い入院生活の中で、同じ時期に出産したお母さん同士が言葉を交わせる場として、温かい時間を生み出している。

心まで満たす
お祝いディナー



こだわりPOINT 3

地域とともに歩む開かれた病院づくり

同院では「KOSAKAすくすくフェスタ」や子ども向けの職業体験イベント「Kosaka Hospital Challenge」を通して、地域とのつながりづくりを大切にしている。「KOSAKAすくすくフェスタ」は、縁日やステージ企画、分娩&妊婦体験などを行っており、誰もが気軽に参加できる地域イベントだ。職業体験では、医師や看護師だけでなく、臨床検査技師やシェフなど多職種の仕事を体験。子どもたちは赤ちゃんが生まれる病院でのお仕事に触れ、自分の誕生について家族に質問したり、命について対話を深めるきっかけにもなっている。

地域と
つながる場を
大切に



ワタシの
かかりつけ医

八尾市南本町

在宅療養支援診療所
医療法人 松樹会
松本クリニック

●内科・外科・整形外科・
リハビリテーション科・漢方内科

在宅療養・介護を多職種・多施設で支援。 SASによる突然死予防のための、 オンラインCPAP療法を開始

睡眠時無呼吸症候群を オンラインで診療

外来と在宅医療の両輪で地域医療をトータルサポートしている「松本クリニック」。訪問看護とリハビリの『こもれび訪問看護ステーション』。ケアプラン作成や手続きを代行する『こもれびケアプランセンター』。宿泊・通所や在宅訪問を通じて医療と介護を受けられる看護小規模多機能型居宅介護(看多機)『ナーシングホームこもれび』。松本クリニックグループではこれら4つの事業所が連携し、チーム医療・介護を提供している。松本クリニックの新たな取り組みとしてSAS(睡眠時無呼吸症候群)のオンライン診療がスタートし、それに合わせて検査キットとCPAP(持続陽圧呼吸療法)の機器をレンタルする会社も立ち上げた。「私自身SASで毎晩CPAPを使用しているんです。CPAPを使ってから睡眠と生活の質が断然良くなって、今では手放せません。皆さんにも体験していただきたいと思い、オンライン診療をはじめました」。SASは日本に900万人以上いると言われているが、そのうち治療をしている人は10%にも満たない、見逃されている疾患だ。日中に強い眠気を感じたり、睡眠時に酸欠になるため朝起きた時に頭痛がしたり、いびきのせいで喉が痛い、夜の頻尿がある人は、SASの可能性が高い。「以前は検査に入院が必要でしたが、今は精密検査もご自宅で可能です。SASは突然死の原因にもなるので、眠気ぐらゐと侮らず、手軽なオンライン診療から治療をはじめてください」。

PROFILE

松本 伸治院長

睡眠と生活の質が断然良くなって、今では手放せません。皆さんにも体験していただきたいと思い、オンライン診療をはじめました」。SAS



2Fにクリニック、1Fに『ナーシングホームこもれび』が入り、訪問看護、ケアプランセンターとも連携しながら質の高い医療を提供している

先生のことば

CPAPは予防医療 SAS改善で生活習慣病を防ぐ



SASは眠っている間に上気道が狭くなったり閉鎖する疾患。高血圧、不整脈、脳卒中、糖尿病、うつ病など様々な合併症の原因となりますが、逆にSASを解消すれば主に高血圧などは改善できるとされています。CPAPは予防医療の一環であり、それらリスクの軽減のため診療を行っています

松本伸治先生

ココもチェック!

がん治療に補助的な選択肢を ANK自己リンパ球免疫療法(自費診療)



「健康的に長生き」を目指すハッピーエイジングの一つとして、自身の血液から免疫細胞を採取し、体外培養してから点滴で戻す「ANK自己リンパ球免疫療法(がん免疫療法)」を導入。部位を問わず、全てのがんが対象となり、患者の選択の幅を広げている

こだわりPOINT 1

病院と家をつなぐワンクッションとして

『ナーシングホームこもれび』では、病院から退院して在宅療養に移る際のお試し期間に入る利用者が増えているそう。1~2カ月入居しながらリハビリを受け、日帰りや一泊で家に帰る時間を増やして様子を見るという利用法だ。ご家族は少しずつ在宅療養に慣れながら「これなら大丈夫」と確信できれば家で受け入れることができ、「家ではきちんと療養できない」となれば、特別養護老人ホーム等の施設を考える判断材料にもなる。ご本人もご家族も納得したうえで療養先を選ぶために、ぜひ利用してほしい。

どこで療養するか迷った時に



こだわりPOINT 2

忙しい人に、SASのオンライン診療

まずはアプリで予約し、受診の後に検査キットが送られてきて、早ければ1週間で結果が出る。最初から最後までオンラインで済ませられるため、受診のために時間を作れない働き盛りの世代にも利用しやすい。必ずしもCPAP療法になるのではなく、SASの原因が鼻中隔湾曲症など外科的治療で改善できるものであればそちらへの受診を紹介し、適切な治療が受けられるよう判別しているので安心。SASと診断されてCPAPを使うようになった以降も月に1回程度の受診が必要だが最長3カ月に1回、そちらもオンラインで済ませられる。

自宅で診療、
自宅で治療



こだわりPOINT 3

オンラインでも安心のバックアップ

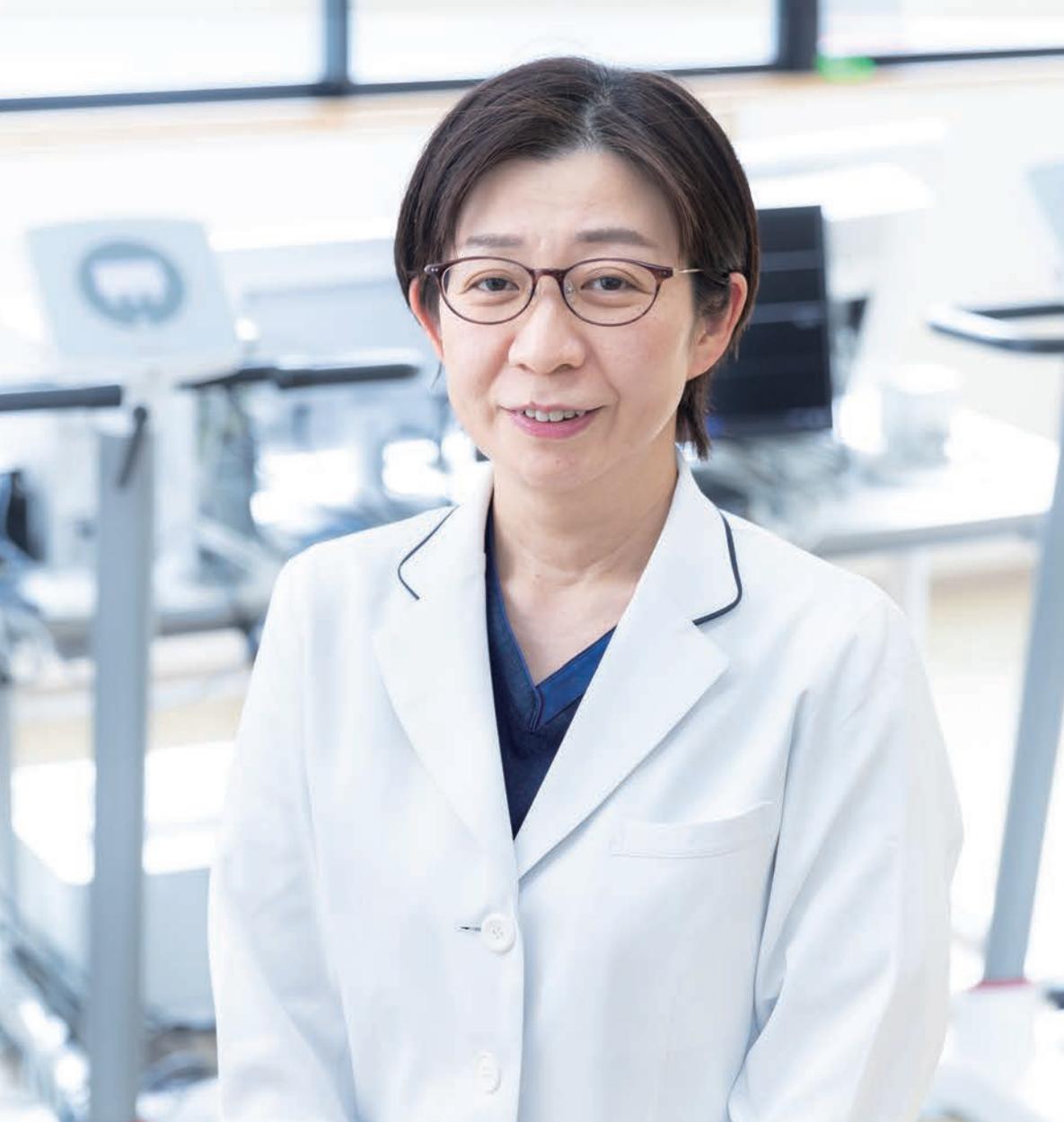
検査キットとCPAPの機器をレンタルする会社を同グループで運営しているため、クリニックと情報を共有しながらワンストップでスピーディーな対応が可能だ。CPAPは使用者それぞれに合わせた設定の調整が必要だが、クリニックが遠隔で操作、管理している。また使用時のデータをクリニックと共有し、細かくチェック。異常がある場合はクリニックから利用者へコンタクトを取るそう。オンラインであってもきちんと患者それぞれの状態を確認し、必要に応じて連絡もあるため、対面でなくても安心できるだろう。

機器や状態を
しっかり管理



担当医
藤川 純子 先生

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士 / 地域のかかりつけ医として、心臓リハビリと予防医療を軸に住民の健康寿命延伸を支えている



テーマ

再発・重症化を防ぐ心臓リハビリテーション



リハビリ室には「木」をモチーフにしたロゴマークが飾られており、その周りには患者やスタッフが思い描く願いや目標が記されている

**退院後の不安に配慮する
外来の心臓リハビリ**

心筋梗塞や心不全などで入院治療を受けた後、体力や生活への不安を抱えたまま退院する患者は少なくない。入院中は心臓リハビリテーションが実施されるが、退院後も継続できる施設は限られているのが現状だ。近年は入院期間の短縮も進み、「どの程度動いていいのかわからない」という戸惑いの声も上がっている。そんな中、退院後の受け皿として外来の心臓リハビリを提供しているのが、志紀なかむらクリニックだ。「心臓リハビリは体力の回復はもちろん、再発や死亡率を下げるのが科学的に示されている治療です。当クリニックでは、専門スタッフが見守る中で、体を動かしていただけますので、不安を抱えていただけの方はぜひ一度ご相談ください」と優しく語る藤川院長。スムーズに日常生活へ戻れるよう、患者一人ひとりに寄り添いながら生活再建を支えている。

運動習慣の土台を整え 在宅移行へと導く

一般的に5カ月程度、保険適用の下で実施される心臓リハビリ。重要なのは継続によって自己管理の力を身につけることである。同クリニックでは週1〜3回程度、通院による心臓リハビリを行い、在宅リハビリへの移行を目指して患者をサポートしている。「運動前後だけでなく運動中も心拍数、心電図、血圧などをチェックするほか、



患者一人ひとりの状態に合わせたプログラムを作成し、その日の体調や不安に丁寧に寄り添いながら心臓リハビリを進めている

専門医療に できること!

精密評価に基づいて 心臓リハビリをスタート

採血や尿検査、胸部X線、心電図、心臓超音波検査、心肺運動負荷テストなどを実施し、心機能や全身状態を把握。その結果を基に、運動強度・時間を数値化した「運動処方」を医師が作成する



検査では呼気ガス分析装置のマスクを装着し、運動負荷試験を実施。運動耐容能や最適な有酸素運動のレベルや、心肺機能が評価できる。

専門スタッフが支える 安全な心臓リハビリ

運動処方に基づき、エルゴメーター(自転車)を用いた有酸素運動を行う。医師および多職種が連携し、リスク管理を徹底しながら運動耐容能の向上を図る



心拍応答や血圧変動を確認しつつ実施。医学的管理体制の下、安全性を担保しながら段階的に強度を設定する

体調や症状の変化を細かく確認し、負荷を調整することで無理なく段階的に運動耐容能を高めていきます。継続して通院された患者さんの中には通院でのリハビリ期間を終えた後、自宅やジムなどで自主的な運動習慣を確立される方も多く見られます」。運動習慣の確立は血圧や血糖、脂質代謝の改善にも寄与し、全身状態の安定に直結する。また狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心不全の患者に対する心臓リハビリは、死亡率や再発・再入院率を約2〜3割程度下げると報告している研究もある。日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士である藤川院長、理学療法士を中心に、看護師など専門スタッフの管理下で安全に経験を積むことが、自立への重要な一歩となるに違いない。

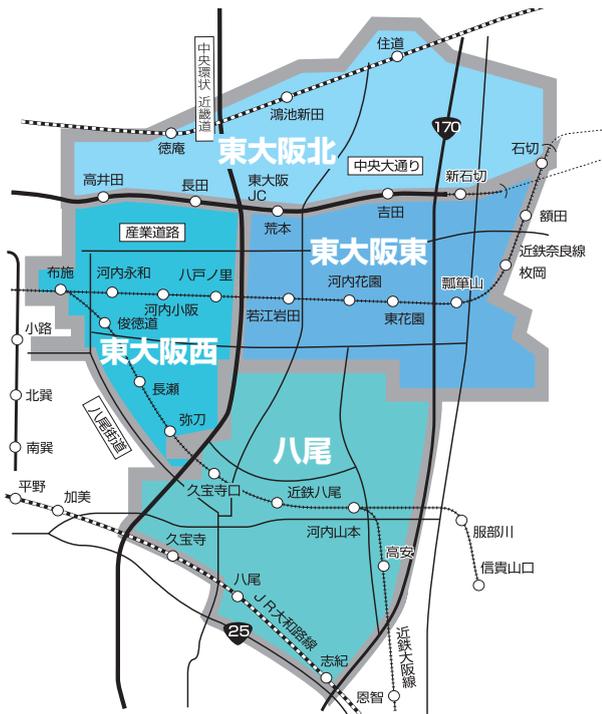
生活習慣の改善に取組み 心疾患の予防へつなげる

心臓の病気が突然起こるように見えても、その背景には高血圧や脂質異常症、糖尿病といった日々の生活の積み重ねが関与していることも多い。そのため、症状が軽いうちから体の状態を把握することが、将来のリスク低減につながる。「当クリニックでは循環器疾患の早期発見と重症化予防にも力を入れています。エコー検査体制を整え、



藤川院長は日本内科学会総合内科専門医の資格を取得しており、高水準の診療を行っている。禁煙外来や健康診断、予防接種にも対応

心臓だけでなく血管や腹部など幅広い評価が可能です。動悸や息切れといった軽微な症状の段階で受診いただくことで、重大な疾患を未然に防げるケースもあります。必要に応じて高次医療機関へ速やかに紹介できる体制も整えています」。心電図、エコー、負荷心電図、24時間心電図などの検査を組み合わせて、総合的な循環器評価を行える点も強みである。さらに院長自身も生活習慣の見直しに真剣に取り組んできた一人であり、自ら体と向き合う中で得た実感や診療に還元している。「自分で実践してみて初めて分かることも多いです。だからこそ、患者さんと同じ目線で一緒に取り組んでいきたいと考えています」。専門医としての知見に加え、実体験に裏打ちされた言葉が、行動変容への後押しとなっている。



東大阪東……………P40～

(若江岩田駅～瓢箪山駅周辺エリア)

東大阪西……………P44～

(布施駅経由～弥刀駅・八戸ノ里駅周辺エリア)

八尾……………P45～

マイドクターばど

ご近所ドクターBOOKで紹介された先生方のインタビューがスマホ・PCでも読めます。



落ち着いた雰囲気を意識した受付と待合室。スタッフ一同、丁寧な接客を心がけています

内科・呼吸器内科・アレルギー科

インタビューページあり

マイドクターばど掲載

こばやし内科呼吸器クリニック

☎072-940-7072

こばやし内科呼吸器クリニック 検索

所在地 東大阪市末広町3-7 ファースト瓢箪山

交通 近鉄奈良線「瓢箪山駅」から徒歩10分

院長 小林大起(経歴:大阪市立大学医学部医学科卒、日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、日本内科学会総合内科専門医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:30	○	○	○	-	○	○	△	-
16:00～18:30	○	○	○	-	○	-	-	-

※△:第2・第4のみ診療

※木曜、日曜(第1・第3・第5)、祝日は休診



小林大起先生
A型 / 氷瓶座

患者様に寄り添う敷居の低いクリニックを目指します



様々な検査機器を用いて詳しく診断しています

呼吸器内科の診察では、問診と聴診を大切にしながら、レントゲンや肺機能を調べるスパイロメーターなどの検査機器を使い精密な診断に注力します



呼吸器内科のほかに、循環器や消化器など多くの診療科目に関わった経験を活かして、呼吸器疾患や生活習慣病など幅広い医療提供を目指します

当院は開院6年目を迎えました。内科、呼吸器内科、アレルギー科を掲げ、呼吸器疾患の診療を中心に対応しています。また、勤務医時代の経験をもとに循環器や消化器を含めた一般内科や生活習慣病にも対応し、地域のニーズに沿った医療を提供。今後も「間口が広く、敷居の低い、相談しやすいクリニック」を目指して、患者様の話に耳を傾けるクリニックづくりに邁進します。近隣の病院とも連携し、地域と病院をつなぐ橋渡し役を担うことで、地域医療にも貢献していきたいと思っております。些細な疑問や不安も気軽ににご相談いただけるよう尽力します。



藤井院長を中心に、スタッフ同士の密なコミュニケーションによるサポートが信条です

内科・消化器内科・内視鏡内科

インタビューページあり

医療法人 基誠会 ふじい消化器内科・内視鏡クリニック

マイドクターばど掲載

☎072-980-6655

東大阪 内視鏡

所在地 東大阪市日下町3-6-9
交通 近鉄けいはんな線「新石切駅」から近鉄/バス四條畷方面「南日下/バス」下車より徒歩2分 ※共用駐車場あり(25台)
院長 藤井基嗣(経歴:東海大学医学部卒、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、医学博士(大阪医科大学))

	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:45~12:00	○	○	○	○	○	○	○	—
17:00~19:00	○	○	○	○	○	○	○	—



藤井基嗣先生
O型 / 双子座

※1 水曜は内視鏡検査手術日
※2 診察・検査は予約制(月・金曜の夕診は予約なしの方も診察)
※土曜も再・大腸内視鏡検査に対応



迅速で正確な検査を目指す 内視鏡システムを採用

大学病院や基幹病院に設置されている内視鏡システムを導入。よりスピーディで正確な内視鏡検査の実施に取り組んでいます

痛みや不安に配慮した内視鏡検査を年間3700件以上実施



様々な検査に関して、医師をサポートする検査技師が常駐。患者様にとって快適で不安の少ない内視鏡検査を心がけています

平成26年に開院したクリニックには、日本消化器内視鏡学会認定の内視鏡専門医が常駐し、患者様に寄り添う医療を目指しています。胃と大腸の内視鏡検査に力を入れており、患者様の苦痛や不安を出来る限り抑える検査を実施。内視鏡設備の充実や少量の麻酔による苦痛を抑えた検査に取り組んでいます。入院や病院での治療が必要な場合には、石切生喜病院、若草第一病院などの近隣病院や、大阪国際がんセンターと連携。一人ひとりの状態に合わせた検査・治療を心がけて、現在では年間3700件以上の検査を実施しています。



口腔内から全身の健康までサポートさせていただきます

歯科・矯正歯科・歯科口腔外科・小児歯科

インタビューページあり

医療法人 山林歯科医院

マイドクターばど掲載

☎072-981-8108

山林歯科医院

所在地 東大阪市四條町1-14フォーチュンコートクリニックプラザビル3F
交通 近鉄奈良線「瓢箪山駅」から南へ徒歩5分
院長 山林一公(経歴:大阪歯科大学卒、歯学博士、日本顎咬合学会の認定医、日本抗加齢医学会の専門医、日本歯科麻酔学会の登録医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:30~12:30	○	○	○	○	○	○	○	—
14:00~18:00	○	○	○	○	○	○	○	—



山林一公先生
O型 / 山羊座

※土曜午後は17:00まで



一人ひとりに合わせた 矯正治療を提案

マウスピース・ワイヤー矯正に対応しており、必要に応じて双方を組み合わせた治療も行っています。目立ちにくいホワイトコーティングワイヤーも導入

今だけでなく、これから先も見据えた歯科診療を



噛む力を専用機器で確認し、現在の口腔機能を可視化。結果を基に、舌のトレーニングや唾液の分泌を促すマッサージを実施

当院では口腔内を一時的に整える治療ではなく、生涯を見据えて健康を支える歯科医療を実践しています。歯科医師や矯正専門医、歯科衛生士、歯科助手に加え、管理栄養士も在籍し、多職種が連携しながら診療にあたっています。近年は、歯並びや噛み合わせが将来の口腔トラブルや全身の健康に深く関わることから、矯正歯科にも注力。見た目の改善にとどまらず、清掃性の向上や噛む力のバランスを整えることで、虫歯・歯周病の予防や口腔機能の安定を目指しています。年齢やライフステージに応じた、継続的な口腔ケアに取り組んでまいります。



リハ・麻(河嶋朗)・腎内・心外・血内・眼・耳鼻・形外・婦・救急・乳外・脳外・呼外
 放診・泌・整外・消内・病理・放治・脳内・呼内・呼腫・内・糖内・消外・肝外・皮・循内

インタビューページあり

医療法人 藤井会 石切生喜病院

☎072-988-3121

石切生喜病院

検索

マイドクターばど掲載

所在地 東大阪市弥生町18-28

交通 近鉄けいはんな線「新石切駅」から徒歩8分、新石切駅、吉田駅、東花園駅、鶴山駅、野崎駅から無料送迎バスあり

院長 平田一人(経歴:大阪市立大学医学部卒、医学博士、日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医、大阪市立大学名誉教授)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-	-
14:00~16:00	○	○	○	○	○	-	-	-

※土曜午後、日曜、祝日、年末年始は休診
 ※医師は予約のみ



平田一人先生
 O型 / 水瓶座

「愛情・信頼・奉仕」を理念に、生きる喜びを
 実感し合える医療機関を目指します

東大阪東

東大阪西

八尾

東大阪北(大東)

「困ったときの石切さん」を目指す 東大阪市の中核病院



手術支援ロボットを導入 負担軽減に配慮した手術

大阪東エリアでも導入施設に限られる手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入。高精度な操作により体への負担軽減に配慮し、安全性を重視した手術を実施しています



抗がん剤治療を支える 専門スタッフによる管理体制

落ち着いた雰囲気のある化学療法センターでは、治療に専念いただける環境づくりに取り組んでいます。専門スタッフが連携し、安全管理体制の下、適切な化学療法の提供に努めています



地域のキャラクター 「いしきりん」が広報大使

地域の石切参道商店街のゆるキャラ「いしきりん」。石切生喜病院の広報大使でもあり、地域振興だけでなく、病院のイベントなどにも登場してくれています

手術分野では、患者さんの早期回復を第一に考え、積極的に低侵襲手術を行っています。胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・前立腺がんなどに対してのロボット支援手術(ダヴィンチ)も導入しています。がん治療においても、手術・抗



高度な医療機器を備えた手術室。チーム医療で安全に配慮しながら、一人ひとりに適した手術を行っています



精度の高い検査機器を備えたCアーム室。病気の早期発見・早期治療につなげています



呼吸器センター・消化器内科の待合スペース。落ち着いた環境で、診療をお待ちいただけます

1982年の開院以来、「困ったときに、まず思い出してもらえぬ病院」をモットーに、地域の皆さまの健康を支えるべく努めてきました。病院の理念は「愛情・信頼・奉仕」。患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して治療を受けていただける医療を目指しています。

当院の特長は、救急医療・手術・がん治療に力を入れていることです。救急医療では、365日24時間体制で患者さんを受け入れ、急な体調不良や事故にも迅速に対応できるように備えています。心臓や脳の病気が疑われる場合には、専門医がすぐに対応できる体制を整え、「いざというときに頼れる病院」を目指しています。

がん剤治療・放射線治療を組み合わせ、治療を提供しています。

治療後の生活を見据えたりハビリテーションにも取り組んでいます。専門スタッフがチームで支援し、できるだけ早く元の生活に戻れるようお手伝いします。腎臓病の早期治療や生活指導にも取り組み、「治す医療」だけでなく「支える医療」に努めています。

石切生喜病院は、地域の診療所や介護施設とも連携し、医療から介護まで切れ目のない支援を通じて、人生の様々な場面で頼っていただける病院を目指しています。これからも、地域の皆さまにとって身近で、安心できる医療の拠点であり続けてまいります。

医療法人
松浦医院

☎072-988-0788

松浦医院 東大阪

検索

所在地 東大阪市喜里川町1-24
 交通 近鉄奈良線「瓢箪山駅」から徒歩8分
 副院長 堤真吾(経歴:琉球大学医学部卒、日本外科学会専門医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
受付時間 9:30~ 12:30	○	○	○	○	○	—	△	△
受付時間 17:30~ 19:30	○	○	○	○	○	—	—	—

※日曜・祝日の受付時間は10:00~16:00(第1・3日曜は休診)
 ※訪問診療は月~金曜 14:00~17:00


 堤真吾先生
 O型 / 蠍座

 車椅子の方も問題なく移動できるよう
 待合室はバリアフリー設計にしています

地域住民の健康を最重視し できる限り断らない診療を目指します

当院は瓢箪山で40年以上診療を続け、地域の皆様の不安を払拭できるよう、できるだけ診療をお断りせずに患者さんを受け入れることを心がけてきました。勤務している医師は男性2名、女性1名で、異性だと相談しづらいという場合には、診療の前にご相談いただければ柔軟に対応いたします。当院の診療内容は大きく分けると外科と内科で、身体の不調に対応するのはもちろんのこと、軽い外傷についても診療可能です。もし当院で対処が難しい場合には、対応ができる医療機関を速やかにご紹介いたしますので、怪我などでお困りの際はご相談いただければと思います。そのほか、この症状はどの診療科に相談すればいいかわからないという場合にも、かかりつけ医として診断をつけますので、悩まずにご相談いただければ幸いです。

また当院は整形外科も標榜しており、広さを重視した物理療法室を設置しています。物理療法室には超音波治療機やウォーターベッドなど、最新の医療機器を3台設置しています。

水圧の刺激で筋肉の凝りをほぐし、血行を改善する効果が期待できるウォーターベッド。物理療法室に3台設置しています



水圧の刺激で筋肉の凝りをほぐし、血行を改善する効果が期待できるウォーターベッド。物理療法室に3台設置しています



鎮痛のために用いる低周波治療器や、空気圧で足や脚をもみほぐすエアマッサージ器を複数設置



鎮痛のための超音波治療と、骨の癒合を促進する超音波骨折治療の両方に対応する機器を導入

ベッドなどを設置して、膝・腰・肩など慢性的な痛みにも悩まされている方に治療を受けていただいています。年齢を重ねると外出が億劫になる方も多いと思いますが、物理療法を受けに来ていただくことで体調のチェックを行うこともできますので、大きな病気の予防のためにも、身体に痛みがある方は受診を検討いただければと思います。

そのほか、当院をかかりつけのクリニックとしていただいている方や、病院を退院する際当院を紹介された方を対象に訪問診療を行っています。訪問診療では採血はもちろん、ポータブルの機器を駆使してレントゲン検査や超音波検査を行うことができますので、ご希望の方はご相談いただければと思います。



地域のご年配の方を支えるため 介護事業を展開

医療法人松浦医院は介護事業にも力を入れており、松浦医院から徒歩圏内に介護ステーションやデイサービスの事業所を複数運営し、それぞれが緊密に連携しあっています



松浦医院内で 通所リハビリテーションを運営

日常生活に何か障がいをお持ちの方、65歳以上でこれから何かをはじめたいとお考えの方などを対象に、手工芸などの創作活動などを通じて心身のリハビリを行っています



健康寿命延伸のため 運動器具を導入

地域にお住まいの方の健康寿命を少しでも延ばすため、ロコモティブシンドロームやフレイル(虚弱)の予防または軽減を目的として、様々なトレーニング器具を導入しています

内科・呼吸器内科・消化器内科・皮膚科・小児科・精神科・外科・消化器外科・心臓・乳外・小外・泌尿器外科・整形形成・眼・耳・産・リハ・放・麻酔(山木良一)・病理・臨検・緩和・救・歯・口腔

インタビューページあり

地方独立行政法人 市立東大阪医療センター

☎06-6781-5101

市立東大阪医療センター

検索

マイドクターばど掲載

所在地 東大阪市西岩田3-4-5
交通 近鉄奈良線「八戸ノ里駅」から徒歩12分
院長 中隆(経歴:大阪大学医学部附属病院)

受付時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30~11:00	○	○	○	○	○	○	-	-

*予約は除く
*紹介状をお持ちの方は紹介状受付へお越しください



中隆院長

高度急性期・専門医療を担う地域の基幹病院



「誠実な医療」を地域の人々にを理念とし、全ての職員が理念、基本方針を共有し、継続的に実践していく組織づくりを行っています

地域医療支援病院、国指定の地域がん診療連携拠点病院等の指定を受け、全33科、520床(ICU10床、NICU6床)の基幹病院。5疾病5事業を軸とした高度急性期・急性期医療の提供に努めています。

内科・小児科・皮膚科・胃腸内科・放射線科

ドクターNET掲載

駒田医院

☎06-6728-7641

駒田医院

検索



所在地 東大阪市俊徳町1-3-16
交通 近鉄大阪線「俊徳道駅」、JRおおさか東線「JR俊徳道駅」から徒歩3分
院長 駒田尚直(経歴:関西医科大学卒、消化器外科専門医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-	-
17:00~20:00	○	○	○	○	○	-	-	-



駒田尚直先生
O型 / 魚座

エコー検査でがんの早期発見に努める



積極的な検査で病気の早期発見に努めています。

喫茶店のように気軽に立ち寄れる医院づくりを心がけ、がんの早期発見を目指した検査も行っています。毎朝8時半から腹部エコー検査専用時間。大阪赤十字病院の登録医でもあり、がんが見つかったり病院治療が必要なケースは患者さんを紹介するなど、病診連携を行っています。

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

ドクターNET掲載

山下整形外科

☎072-968-1223

山下整形外科

検索



所在地 東大阪市花園本町1-7-11 P有
交通 近鉄奈良線「河内花園駅」南出口から徒歩1分
院長 山下敦夫(兵庫医科大学卒、日本整形外科学会専門医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	-	-
16:30~19:30	○	○	○	○	-	-	-	-

*初診の受付は、午前診11:30迄、午後診19:00迄



山下敦夫先生
O型 / 蟹座

症状に合った的確な判断でスムーズな治療を目指しています



リハビリテーションは院長と機能訓練士が連携して、医学的管理の下実施いたします

小児からお年寄りまで、骨や関節のトラブル、手足のしびれ・痛みなどの様々な症状や外傷切り傷に対応しています。個々の症状を的確に見極め、リハビリ(機能訓練)など必要な治療を必要分だけ行うことを医療方針とする山下院長が、全ての診療に対応し、待ち時間を押さえたスムーズな診療を目指しています。

婦人科・乳腺外科

医療法人 竹村医学研究会(財団) 小阪レディースクリニック

☎06-6729-1192

小阪レディースクリニック

検索

所在地 東大阪市菱屋西3-4-13
交通 近鉄奈良線「河内小阪駅」から南へ徒歩5分、JRおおさか東線「河内永和駅」から南東へ徒歩10分

	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30~11:30	○	○	○	○	○	○	-	-
13:30~16:30	○	-	-	-	-	-	-	-
16:00~18:00	-	○	-	-	-	-	-	-

*上記は受け付け時間です。*乳癌外来は完全予約制です
*初診又は再初診の方は予約制です



女性の人生に寄り添う健康パートナー



子宮頸がん検診と乳がん検診を同日に受診できる体制を整備。通いやすく、継続しやすい検査環境づくりに取り組んでいます

小阪産婦人科と連携するレディースクリニックとして、子宮頸がん検診や乳がん検診に注力しております。マンモグラフィ、乳腺超音波検査に対応するほか、HPVワクチン接種も行っており、将来を見据えた健康管理をサポートしています。



仕事や育児と両立しやすいよう
土曜は午前・午後診療(完全予約制)に対応

産科・婦人科・小児科

インタビューページあり

医療法人 竹村医学研究会(財団)

マイドクターばど掲載

小阪産病院

☎06-6722-4771

小阪産病院

所在地 東大阪市菱屋西3-6-8
交通 近鉄奈良線「河内小阪駅」から南へ徒歩5分、JRおおさか東線「河内永和駅」から南東へ徒歩10分

	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30~11:30	○	○	○	○	○	○	○	—
13:30~16:30	○	○	○	○	○	○	○	—

※土曜は完全予約制



竹村真紀理事長

妊娠・出産・子育てまでチーム医療で切れ目なくサポート



成長に合わせて通える 小児ワクチン外来

生後2~4カ月の乳児期に必要な予防接種に加え、小学生・中学生までの予防接種にも対応する小児ワクチン外来がスタートしました



地域とつながり、親子で命や出産について考える機会として、「KOSAKAすくすくフェスタ」や子ども向け職業体験に取組んでいます

小阪産病院では、妊娠・出産から産後、子育て期に至るまで、女性のライフステージに寄り添う医療体制を整えています。各専門職が連携するチーム医療で、一人ひとりの状況や思いに合わせたサポートを実施。専任の麻酔科医が担当する無痛分娩は、初産婦・経産婦を問わず対応しており、安全性を重視した体制で取組んでいます。また姉妹施設として、「小阪レディースクリニック」「産後ケアセンター小阪」「キッズハウス小阪」を展開。お母さんと赤ちゃん、ご家族が心地よく毎日を過ごせる環境づくりを目指しています。



「笑顔になって帰るクリニック」という理念を掲げ、体も心も前向きになれる医療を目指しています

内科・循環器内科・心臓リハビリテーション科

インタビューページあり

医療法人治心会

マイドクターばど掲載

なかむらクリニック

☎050-1720-6288

なかむらクリニック 八尾市

所在地 八尾市刑部2-182
交通 近鉄大線「高安駅」より徒歩8分
院長 中村治夫(経歴:大阪市立大学医学部卒、日本内科学会認定内科医・内科指導医、日本循環器学会認定循環器専門医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	—	○	○	○	○	△	—
15:00~18:00	○	—	○	○	○	—	△	—

※△…第3週のみ診療
※休診日…火・土(午後)・日・祝日



中村治夫先生
A型 / 射手座

継続的な心臓リハビリで、未来の健康を支える



通いやすさも 大切にしています

「高安駅」から徒歩8分の距離にあり、駐車場は4台分用意しています。無理なく心臓リハビリを続けられるよう、アクセス面にも配慮しています



有酸素運動に加え、ゴムバンドを使った筋力トレーニングも実施。音楽に合わせるなど、飽きずに続けられるよう工夫しています

心臓リハビリテーションを中心に、一般内科・循環器内科、生活習慣病の予防、禁煙外来、ダイエット外来など幅広く対応しています。心臓リハビリでは治療後の体力回復だけでなく、再発予防や健康寿命の延伸を見据え一人ひとりの体力や生活背景に合わせた運動療法をご提案。理学療法士や看護師、健康運動指導士が心電図や心拍数などを確認し、安全性に配慮しながら実施しています。さらに近年は「ふれあい運動教室」や「ふれあいまつり」など、地域と連携した取組みにも注力。心臓リハビリから生活習慣病の予防まで、循環器医療の拠点としての歩みを続けていきます。



地域とひとに密着した医療の提供を心がけ、皆様に信頼いただけるよう邁進いたします。

内・呼内・循内・滑内・肝内・腫内・緩和・腫内・内分泌・神内・心内・精・リウ・血内・腎内・皮小・救急・外・呼外・整外・産外・心外・腎外・乳外・小外・形外・美外・泌尿・麻(谷二介)・歯科・外・耳・婦・産・リハ

インタビューページあり

医療法人 徳洲会 八尾徳洲会総合病院

マイドクターばど掲載

☎072-993-8501

八尾徳洲会

検索

所在地 八尾市若草町1-17
交通 近鉄大阪線「近鉄八尾駅」から徒歩10分
院長 原田博雅(経歴:徳島大学卒)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	○	○
17:00~19:00	○	○	○	○	○	○	○	○



原田博雅先生
A型 / 乙女座

※受付時間9:00~12:00、16:30~19:00
※受付終了時間は各診療科によって異なります

新病棟の開設で救急医療の受け入れを強化



ハイブリッド手術室で 低侵襲手術に対応

当院では手術室と心臓カテーテル室の機能を併せ持つハイブリッド手術室を導入。大動脈瘤や大動脈解離に対する低侵襲手術を行うことが可能です。



ICU8床、HCU30床(2025年6月に20床から増床)。2026年3月にICU20床へ増床を予定し、重症患者様への対応能力を強化

八尾徳洲会総合病院は1978年の開設以来「生命だけは平等だ」との徳洲会の理念の下に、患者様に手厚く医療を提供できるように、生活背景や病歴などを含めてチーム一丸となつて診療する「全人的医療」の実践を心がけています。また、可能な限り多くの命を救えるよう、24時間365日体制で救急医療を提供。ドクターカーを活用しながら、「断らない医療」の実践に注力しています。今後も八尾市を中心に、東大阪市・柏原市など中河内エリアの患者様を広く受け入れられる体制を整え、地域医療の要として貢献してまいります。



医療と介護が密に連携し、その人らしい最後を迎える在宅医療の提供に尽力しています。

内科・外科

インタビューページあり

医療法人 光誠会 しろばとクリニック

マイドクターばど掲載

☎072-928-4877

しろばとクリニック

検索

所在地 八尾市光町1-29 サンフォレスト104
交通 近鉄大阪線「近鉄八尾駅」から徒歩約5分
院長 栗岡宏彰(経歴:金沢医科大学卒)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	○	○
13:00~18:00	※1	※2	※1	※2	※1	※2	○	○



栗岡宏彰先生
O型 / 蟹座

※1 月・水・金は外来診療
※2 火・木は往診

患者様とその家族の心に寄り添った在宅医療を目指して



医療や介護について学ぶ しろばとの情報センター

一般書から専門書まで医療や介護に関する書籍を約300冊所蔵。書籍やDVDはレンタル可能で、自宅に持ち帰って家族と一緒に学ぶことができます。



「しろばと在宅医療介護情報センター」には、相談員が常駐。在宅医療や介護施設について無料でご相談いただけます。

一般診療や健診に加え、在宅医療に対応している当クリニック。24時間365日体制で体調の急変など緊急時にも対応できる環境を整えています。また、在宅での療養が難しい方のために「しろばと緩和ケアホーム」を運営。末期がんや難病など、医療依存度の高い患者様も受け入れています。さらに、今年1月には新たに老人ホームとしての機能を備えた施設「しろばとの家」を開設。地域の方々が安心して暮らせる住まいの選択肢を広げています。そのほか「やお多職種連携の会」を設立し、医療・介護従事者が円滑につながる地域づくりに注力しています。

内・消内・循内・腫内・血内・精外・消外・呼外・乳外・整外・脳外・産小・眼・耳・形外・皮・泌・放り・ハ・麻(小多田英貴)・病理・口腔外科・分泌代謝補内・救命・放治

インタビューページあり

マイドクターばど掲載

八尾市立病院

☎072-922-0881(代表)

八尾市立病院

検索

所在地 八尾市龍華町1-3-1
交通 JR大和路線「久宝寺駅」から徒歩5分
院長 藤田淳也(経歴:大阪大学医学部卒)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:45~ 11:30	○	○	○	○	○	-	-	-



※内科系・耳鼻咽喉科・整形外科・皮膚科は紹介状が必要
※上記は診療受付時間です

藤田淳也先生
A型 / 牡牛座



中河内医療圏の中核病院として、幅広い患者さまの支援を目指します

がん治療を中心とした高度医療の提供と地域医療連携に注力し市民の健康をサポート

八尾市立病院は、地域の皆様が住み慣れた場所でも末永く健康で暮らせるよう、「地域医療」と「高度医療」を運営の要として、幅広く診療を行うことを心がけています。また、当院は公立病院として「断らない救急」を掲げており、24時間365日体制で内科・外科の受け入れを行っています。その結果、平成24年に大阪府から「地域医療支援病院」の承認を受け、平成27年には国から「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。

がん治療においては、手術・化学療法・放射線治療緩和ケアなどを提供しています。令和3年には手術支援ロボット『ダヴィンチ』を導入し、肺・胃・結腸・直腸・前立腺・腎臓・子宮などのがんに対して、従来より身体の負担が少ない手術を行えるようになりました。放射線治療では、骨転移の疼痛緩和を目的とした緩和照射にも対応しています。また、治療に対して不安を抱えている方のため「がん相談・就労支援センター」も設置しており、がんに関する疑問や悩みを気兼ねなく相談していただけます。

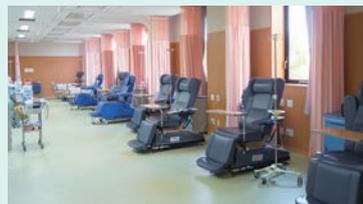


手術支援ロボット「ダヴィンチ」。従来の手術と比べて身体への負担が少なく、早期回復や合併症の軽減が期待できます



医療連携の要となる『地域医療連携センター』

医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・事務員など多職種が所属し、地域の医療機関との連携に努めています。医療機関からのFAX送信で診療や検査の事前予約が可能で、昨年開設された肝疾患専門外来、消化器疾患専門外来、肥満症治療外来へのお問い合わせもこちらで対応しています



通院でのがん化学療法に対応する『通院治療センター』

近年がん治療の中で抗がん剤を使用する化学療法の果たす役割が大きくなっており、通院での治療を希望する患者さまのため、通院治療センターを運用しています。リクライニングチェア13台とベッド3台を設置し、複数人同時に治療が可能。チェアにはテーブルが付いていて治療中に飲食でき、カーテンで仕切ることによってプライバシーを確保しています

輪番制で小児救急に対応

当院は、大阪府地域周産期母子医療センターに指定されています。小児救急は中河内医療圏において輪番制で対応しており、当院は火・土曜の9:00から翌8:00まで受け付けています
※火・土曜が祝日の場合は19:00から翌8:00まで
※対応時間は変更する場合があります



高精度放射線治療装置。放射線の強度や角度が調整でき、正常部分への被ばく量減少が見込めます



令和6年から行っている「こども食堂」の様子。医師と交流しながら食事ができ、医療について学べます

地域連携の取組みとしては、「登録医制度」を運用しており、八尾市を中心とした546の医療機関にご登録いただき、速やかに連携が取れる体制づくりに注力しています。また、地域の診療所・薬局へ介護施設など情報共有をするために「病診薬連携システム」も導入しております。

新たな取組みとしては、今年3月より無料の患者送迎車両の運行を開始しました。近鉄大阪線「河内山本駅」と当院、地下鉄合町線「八尾南駅」「出戸駅」と当院を結ぶ2ルートで運行していますので、ご活用いただけます。また、患者さまのプライバシーを守りつつ、情報を即座に参照して診療ができるよう、電子カルテの更新にも取組みました。



体の各部位の専門医療を総合的に提供し、地域住民の健康長寿に注力しています

内・循内・心血外・脳外・外科・整外・神内・
消内・皮・形外・婦・眼・泌・歯・口外

インタビューページあり

社会医療法人 医真会 医真会総合クリニック

マイドクターばど掲載

☎072-948-0708

医真会総合クリニック

検索

所在地 八尾市沼1-68-64

交通 地下鉄「八尾南駅」、近鉄「藤井寺駅」「恩智駅」、JR「志紀駅」「柏原駅」より無料送迎バスあり
院長 柳農浩右(資格:日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会の運動器リハビリテーション医・スポーツ医、日本抗加齢医学会の専門医、日本医師会認定の産業医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—	—
13:00~16:00	○	○	○	○	○	—	—	—

※診療科によって診療時間は異なります
※全診療科、予約制です



柳農浩右先生
A型 銀座

各種専門外来の診療。老化予防医療で健康長寿を目指す



16列マルチスライスCTスキャナー

的確な診療を目指し、16列のマルチスライスCTスキャナーを導入。デジタル化した検査結果はモニターで確認することができます



骨粗しょう症外来では「骨密度測定器」で骨量を検査し、結果に応じた生活指導や治療を行っています

救急対応の医真会八尾総合病院に隣接する当院では、主に慢性期疾患の診療を行っています。一般診療から手の外来、足の疾患センター、骨粗しょう症外来、育毛外来などの専門外来まで、幅広く専門的な医療・看護の提供に努めています。カルテの電子化、各種検査結果のデジタル配信を整備し、診察室のモニターで検査結果を見ていただきながら治療の説明を行っています。また、診療は予約制とし、患者さんの待ち時間を短縮できるように配慮。地域の皆さまに継続的で高度な医療を提供する施設を目指し、挑戦と努力を重ねています。



一つの施設で「医療・看護・介護・リハビリ」と包括的にサービスを受けられることが強みです

内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・漢方内科

インタビューページあり

在宅療養支援診療所 医療法人 松樹会 松本クリニック

マイドクターばど掲載

☎072-970-6421

八尾 松本クリニック

検索

所在地 八尾市南本町4-1-11 2F

交通 JR線大和路線「八尾駅」から徒歩10分、近鉄大阪線「近鉄八尾駅」から徒歩14分
院長 松本伸治(経歴:和歌山県立医科大学医学部医学科、日本外科学会認定医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:30	○	—	○	○	—	○	—	—
17:00~19:00	○	○	○	○	○	—	—	—

※1 午後診療は完全予約制(詳しくはお問い合わせ)
※2 外来診療休日…火・金・土(午後) 日・祝日
※3 在宅医療は24時間365日対応しています



松本伸治先生
B型 水瓶座

医・看・介・リハを提供し、患者さんとご家族を支援



睡眠時無呼吸症候群のオンライン診療に対応

自宅に居ながら、SAS(睡眠時無呼吸症候群)の診察が可能。検査、CPAPの導入まで、クリニックに来ていただくことなく対応可能です



医療職はもちろん事務員に至るまで、常に患者さんとご家族のためにできることを探し、支援するよう努めています

開業して今年で11年目を迎える松本クリニックグループ。「患者さんとそのご家族の生活に寄り添う「温かい医療と介護」を提供します」という理念を元に、4つの事業所を展開しています。在宅診療と外来診療を行う松本クリニックを中心に、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、看護小規模多機能型居宅介護施設(看多機)が密に連携し、患者さんとご家族の在宅医療・介護を包括的にサポート。また、睡眠時無呼吸症候群に対するCPAP療法のためのオンライン診療をスタートし、「健康的に長生きすること」を目指したハッピーエイジングを外来で導入しています。



循環器診療に加え、風邪や発熱、生活習慣病などの一般内科診療にも対応しています

内科・循環器内科・心臓リハビリテーション科

インタビューページあり

医療法人治心会 志紀なかむらクリニック

マイドクターばど掲載

☎050-1721-4504

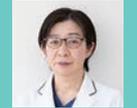
志紀なかむらクリニック 八尾市

検索

所在地 八尾市志紀町2-46 小枝ビルII2F
交通 JR大和路線「志紀駅」から徒歩5分
院長 藤川純子(経歴:大阪大学医学部卒、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、心臓リハビリテーション指導士)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	-	○	○	○	-	-
15:00~16:00	○	○	-	○	○	-	-	-
16:00~18:30	○	○	-	○	○	-	-	-

※15:00~16:00までは検査のみ



藤川純子先生
A型 / 水瓶座



一人ひとりに合わせた運動処方を用意

心臓リハビリでは自転車エルゴメーターを使った有酸素運動、ゴムバンドを使った筋力トレーニングなどを専門スタッフと一緒にを行います

患者さんと同じ歩幅で進める心臓リハビリ



待合室ではオリジナル運動動画を流しています。自宅でも実践できるよう視聴用のQRコードもご案内しています

心疾患の治療後に重要となるのが、再発や重症化を予防するための継続的な心臓リハビリテーションです。当クリニックではご自身の運動継続を目標に、専門的な心臓リハビリを提供しています。検査結果に基づいて運動処方を作成し、医師・理学療法士、看護師など多職種が連携しながら患者さんをサポート。また高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の予防・管理にも力を入れています。生活習慣の改善は患者さんと同じ方向を見ながら共に取組むことが大切だと考えています。これからも地域の皆さまの健康を長期的に支えてまいります。



お子様からお年寄りまで親身な診療と地域に根差したクリニックを目指します。

耳鼻咽喉科・アレルギー科

ドクターNET掲載

ふじい耳鼻咽喉科

☎072-928-4187

ふじい耳鼻咽喉科

検索



所在地 八尾市光南町1-3-24
交通 JR大和路線「八尾駅」、近鉄大阪線「八尾駅」から徒歩10分 ※駐車場あり(4台)
院長 藤井恵美(経歴:兵庫医科大学大学院医学研究科修了、医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医)

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:30~16:00	○	○	-	○	○	△	-	-

※受付時間: 9:00~16:00迄(随時受付は一切致しません)
 ※土曜日は午後から手術の為、12:00迄



藤井恵美先生
B型 / 水瓶座

患者様としっかり向き合う細やかな診療を目指す



専用駐車場を4台分設置しています

敷地内に患者様専用の駐車場を設けており、お車で来院が可能です。車椅子の患者様はエレベーターで受付までお越しいただけます



アルゴンプラズマ手術装置。花粉症、アレルギー性鼻炎に対するレーザー治療に用います。電気メスとして鼻出血にも使用します

耳鼻咽喉科領域の疾患全般みみはなのど・頸部の諸症状やめまい症状などに対応いたします。院内での混雑緩和のためインターネットでの診療受付システムを採用し、一人ひとりの患者様としっかり向き合うた上での診療を目指しております。アレルギー性鼻炎に対しては薬物治療の他、アレルギー免疫療法や日帰りで手術が完了し健康保険適応のアルゴンプラズマ装置による鼻粘膜変性手術も行っております。睡眠時無呼吸症候群の検査・治療、ピアスの穴開け(自由診療5000円+税込)にも対応しております。

家庭や職場でできる 感染症の予防と対策

感染症にかかると、発熱や腹痛、嘔吐などさまざまな辛い症状に見舞われます。できれば感染したくないですよね。ここでは感染症の流行時期と、予防方法や感染対策のポイントを解説します。

気になるあの感染症の流行時期はいつ？

日本では1年を通してさまざまな感染症が流行しますが、いつ、どんな感染症が流行しやすいか知っていますか？

見聞きする機会が多い感染症と、流行のピーク時期を表にまとめました。

感染症	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
インフルエンザ												
ノロウイルス感染症												
ロタウイルス感染症												
プール熱												
麻疹(はしか)												
風しん												
ブドウ球菌感染症												
溶連菌感染症												

インフルエンザやノロウイルス感染症は夏でも流行するって本当!?

この表で示したのは、あくまで各感染症の流行のピーク時期です。インフルエンザやノロウイルス感染症が主に流行するのは冬ですが、夏に感染する方も少なくありません。

夏にこれらの感染症にかかる原因は、暑さによる体力の消耗や、夏バテにより免疫力の低下など。くわえてエアコンがつけた室内の空気は乾燥しがち。インフルエンザウイルスやノロウイルスは気温が低く、空気が乾燥した環境を好むため、おのずと感染リスクは高まってしまいます。

「インフルエンザやノロウイルス感染症は冬に流行るもの」と油断しているなら要注意!ぜひ1年を通して感染症対策を徹底してください。

家庭や職場でできる 感染症予防は日々の生活習慣から!

手洗い、うがい

手や口内に付着したウイルスを洗い流すのに有効です。



休養

疲労も免疫力が低下する原因のひとつ。睡眠時間は毎日7~8時間を目標とし、免疫力の向上に努めましょう。



バランスのよい食生活

五大栄養素(タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル)をバランスよく摂ることで免疫力の向上につながります。



日々の体調管理

毎朝の検温をルール化するなど、些細な体調変化にすぐ気づける環境づくりをしましょう。なんらかの症状があれば出社や外出を控えてください。



家庭内に感染者もしくは感染症が疑われる人がいる場合は、上記の習慣に加えて以下の3点にも注意して周囲への感染拡大を防ぎましょう。

1 具合が悪い人とは可能なかぎり部屋を分けて過ごす

2 具合が悪い人の看病は限られた人が行うようにする

3 症状の有無に関わらず家族全員でマスクをする

今日からすぐ実践できる感染症対策を意識して取り組んでみてください。

こまめな換気と加湿でウイルスを撃退!

ウイルスは空気が乾燥した環境を好みます。定期的な換気や加湿により、室内の湿度は50~60%程度に保ちましょう。また、換気をするとき室内の空気中に漂うウイルスを外へ逃がすことができます。



咳エチケットを忘れずに!

咳やくしゃみをする際には袖やハンカチ、ティッシュで口と鼻を抑えましょう。



ウイルスから自分を守る努力を!

感染症が流行する時期にはできるかぎり人混みを避け、やむを得ない場合はマスクをして外出しましょう。



共有で使うものはこまめに消毒!

ドアノブや手すり、電話などは、次亜塩素酸ナトリウムや消毒用アルコールを用いて除菌しましょう。



ゴミ袋は密閉してウイルスをブロック!

ゴミ出すときはゴミ袋の中の空気を抜き(※)、しっかり縛って密閉してから捨ててください。

※収集車の中で袋が破裂することによるウイルスの飛散を防ぐため



生活習慣の見直しやちょっとした心がけで、感染症にかかるリスクは下げられます。まずはできる範囲から、ウイルスに負けない体づくりを目指しましょう!



腸内フローラって何？

腸内フローラとは、腸内に生息する細菌の集団をさす言葉です。人間の腸内には1,000種類以上、約100兆個もの細菌が生息しており、細菌は種類ごとに一塊になって腸内のあちこちに分布しています。腸内の一面をさまざまな細菌が埋め尽くす様子を花畑(※)に例えたことから、腸内フローラという呼び名になりました。

(※)フローラの意味は「特定の地域や時期、特定の環境に生息する植物群」

腸内細菌は大きく3つに分類されます

一般的にいわれている腸内細菌の理想的なバランスは「善玉菌2:悪玉菌1:日和見菌7」です。

これにくわえて、近年は「腸内細菌の多様性」も重視されています。腸内細菌は種類ごとに役割や得意分野を持っています。このことから、腸内に生息する細菌の種類は多ければ多いほど、腸内環境の変化に柔軟に対応できるとの考え方が広まっているのです。



善玉菌

悪玉菌の増殖を抑え、感染症を予防することに加え、腸の運動を活発にするなど健康な腸内環境づくりに欠かせない細菌です。



悪玉菌

有害物質をつくり出し、腸内環境を悪化させます。腸内に悪玉菌が増えると下痢や腹痛などの症状が出ることも。



日和見菌

善玉菌が優位であれば善玉菌の、悪玉菌が優位であれば悪玉菌の味方をする細菌です。腸内細菌の70%は日和見菌だとされています。

腸と免疫の関係性&腸内環境を整えるメリット

人間の免疫機能と腸は密接につながっています。というのも、人間の免疫細胞は70%が腸内に存在しており、外界から腸へ侵入してきた病原菌やウイルスを撃退するのも善玉菌の役割です。腸内環境を整えるメリットは数え切れないほどあります。

便通の改善

善玉菌の増加により腸の動きがよくなり、スムーズな排便を促す

肌荒れの改善

肌荒れの原因のひとつは腸に溜まった老廃物や有害物質。腸内環境を整えて老廃物を排出することが肌荒れの改善につながる

太りにくい体質への改善

善玉菌のブラウティア菌は脂肪の蓄積抑制に効果的!

アレルギー症状の緩和

腸内細菌の働きによって生産される短鎖脂肪酸がアレルギー反応を抑制する機能を持つ

ストレス緩和、幸せホルモンの分泌

神経伝達物質「セロトニン」の材料を生成し、体内時計を調整して睡眠の質を向上したり精神の安定や幸福感をもたらす

このように腸内細菌は非常に働き者、よい腸内環境を保つことは、心身の健康を維持するために必須といっても過言ではありません。



腸内環境をよくする腸活のススメ

腸内フローラのバランスを整え、よい腸内環境をつくるために特に次の3つを実践することが大切です。

ススメその1

善玉菌を増やす食生活を心がける

善玉菌に分類される乳酸菌は、ヨーグルトや納豆、ぬか漬け、チーズなどの発酵食品に多く含まれます。海藻類やきのこ類に含まれる食物繊維と、ごぼうや玉ねぎ、バナナに多いオリゴ糖は善玉菌のエサになるため、積極的に摂取しましょう。



ススメその2

悪い生活習慣を見直す

腸はストレスの影響を受けやすい臓器です。日頃から趣味や好きな事をして気分転換をし、規則正しい睡眠を取り、ストレスを溜めない生活を心がけましょう。

ススメその3

簡単なエクササイズで毎日すっきり

毎日すっきり排便するのも腸内環境の維持に不可欠。そして、腸に溜まった便をスムーズに出すには腹筋の力が必要です。便通のお悩みがあるなら、家事のスキマ時間でできるこちらのエクササイズをお試しください。



- ①イスに座り、背筋を伸ばして足を肩幅に開く
- ②床から足先を浮かし、太ももを上を持ち上げる
- ③左右交互に10回繰り返す

自分の腸内環境が気になるなら、腸内フローラ検査を受けてみてはいかがでしょうか？

検査では以下のようなことが分かります。

- 腸内フローラの状態（細菌の割合、種類の多さ）
- 太りやすさ
- 病気リスク判定
- 腸内環境改善のアドバイス

※項目は検査を受ける機関により異なります。

検査費用は20,000円前後。一部の医療機関で受けられるほか、自宅で検査できるキットも販売されているので、興味があれば調べてみてください。

腸内細菌の分類と役割は？

健康な毎日はいい腸内環境から!

まずはできる範囲から、腸内フローラのバランスを整える生活を心がけましょう!

ご近所ドクター
BOOK 2026

東大阪・八尾・大東周辺地域版

2026年3月27日発行

編集・発行／株式会社関西ばど 東大阪営業部

〒577-0803 東大阪市下小阪2-14-16 天正八戸ノ里ビル3F

TEL 06-6729-8101